

KOMATSU

コマツ栗津工場OB会

会誌 第36号



栗津工場新組立工場

“ 2015 ”
平成 27 年

本号内容のあらまし

OB会 平成26年度行事報告

フォトハイライト

会員寄稿文集

随筆、紀行文、思い出、など
地区活動報告・トピックス

表紙の説明

題 名 栗津工場新組立工場
撮影日時 平成26年9月2日
撮 影 者 向井 良夫

昨年5月に完成した新組立工場の見学会を9月2日と4日の2回に分けて実施しました。新工場は最新の省エネ・ICTを取り入れた素晴らしい工場で、内外の見学者が多く訪れております。許可を得て撮影させていただきました。

巻頭の「挨拶」

コマツ栗津工場OB会

会長 西尾 皓史

コマツOB会「会誌」第三十六号の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

平成二十六年度も残すところあと僅かとなりましたが、会員各位には、年間を通じてOB会の活動行事、更にこまつの杜ボランティア活動等に多数参加して頂き本当に有難うございました。

昨年十二月十日に、コマツ本社人事部主催の「工場系OB会定期交流会」が、コマツ本社で開催されました。各工場OB会長、社友会会長、川崎OB会会長、そして、コマツの人事部長、コマツユニオン中央執行委員長も出席されて、お互い情報の交換がなされましたが、各工場OB会共通の課題として、①OB会員の新規入会者が少なく会員数が減少している。②会員の高齢化が進んでいる。③会計収支がだんだん苦しくなっている。④OB会の活動行事やボランティア等の参加者が少なく固定化している等々、が提起され、その対応策については、今後、交流会を通じて話し合い知恵を出して行こう、と言うことで、

第二回目は、来年度「こまつの杜」で開催することになりました。

栗津工場OB会は、平成二十三年にオープンした「こまつの杜」というボランティア活動の場が与えられているので、他工場に比して大変恵まれた環境にあり、年間のボランティア参加延べ人数は、今年度、五千五百人にも達する見込みであります。

今回の「定期交流会」で、OBボランティアの活動状況をパワーポイントで映写し、是非、全国のコマツOBの方が大勢「こまつの杜」へ来て頂くようPRをお願いしてきました。

「こまつの杜」では、現在、年度内の完成をめざして、ビクターズセンタを建設中で、その中に、OBボランティアルームが作られることになっております。OB会員の休憩所として、また、相互の交流の場として大いに活用していきたいと思っております。

さて、今年度のOB会行事を振り返って見ますと、六月の「物故者追悼法要」については、昨年度に引き続いてセレモニーホールで開催し、多くのご遺族やOB会員の参列を頂き、厳粛な中に心のこもった追悼法要を執り行わせて頂きました。

国内旅行の「日光と茨城工場見学」、海外旅

行の「南イタリア世界遺産を巡る旅」、遠征ウオーキング「白馬八方塩の道ウオーク」、また「遊泉寺銅山跡ウオーク」は、多くの会員に参加して頂き、大盛況の中で行事を執り行うことができました。

そして、ゴルフ、グラウンドゴルフ、パークゴルフ、については、例年通り同好会活動を含めて多くの参加者で大変盛り上がりを見せましたし、第二回「文化祭」は、折り紙教室を新たにメニューとして加えて充実したものになり、多数のOB各位の参加を頂いて成功裏に執り行うことができました。

また例年通り、米寿のお祝い、長期療養者のお見舞い、また、亡くなられた方への弔意も、これまで通り丁寧に実施して参りましたし、これからも心のこもった対応をして参りたいと思います。

コマツ栗津工場OB会の目的は、規約にある通り、会員相互の親睦・交流を図ることです。九十有余年の歴史を持つコマツ、そのコマツの文化を作り上げ、その中で永年にわたって働き続けてきたOBのみなさんが、コマツの文化のDNAをもってOB会行事やボランティア活動に参加し、地区分会での行事を含めた幅広い活動を展開すれば、地域社会への貢献に繋がるものと確信しております。

第三十七回 定期総会を開催

平成二十六年行事計画・予算、新役員などを決定
昼食懇親会は出身職場ごとの席で交流を深める

開催日時 平成26年4月23日(木)
午前10時30分～

開催場所 小松市民センター 大ホール

出席者 会員319名、来賓12名、計331名

◆ 総会次第 ◆

開会の辞 山田俊昭常任理事(司会、苗代地区)
OB会会長挨拶 西尾皓史会長
ご来賓の祝辞

和田慎司小松市長(OB会会員)

山下修ニコマツ常務執行役員栗津工場長

宮崎浩ニコマツユニオン北陸支部執行委員長

ほか栗津工場、金沢工場、特機本部、ユニオン

わくわくコマツ館代表の出席者を紹介

祝電披露

大橋徹ニコマツ代表取締役社長(兼)CEO

榎原公雄コマツユニオン中央執行委員長

ほか森常務執行役員、浦野執行役員人事部長、

社友会、他工場OB会祝電披露

議長選出 村田真二常任理事(根上地区)



第1号議案

- ① 平成25年度行事結果報告
- ② 平成25年度会計決算報告
- ③ 平成25年度会計監査報告

以上の報告を拍手で承認

第2号議案

① 新役員の承認

副会長

宮崎紀代二(苗代)、前田昭則(寺井)

事務局長(常任理事) 向井良夫(上小松)

会計(常任理事) 細呂木谷光雄(符津)

新任常任理事

川畑与明(国府)、荒木義昭(寺井)

山下久輝(国府)、北野邦夫(美川川北)

新任地区理事

平野松雄(美川川北)、河村良平(寺井)

吉村 茂(東陵)、竹内芳昭(能美)

今西和夫(犬丸)、中村正文(上小松)

新谷信秀(苗代)、山田俊昭(蓮台寺)

西田政彦(今江)、白岩正博(御幸)

河原達夫(符津)、得田邦夫(矢田野)

南出 保(分校)、上村純仁(大聖寺)

谷川 栄(福井) 以上、拍手で承認

② 退任役員への表彰状贈呈

和田勝也氏(辰口地区、役員通算12年)

岩田浩晴氏(大聖寺地区、役員通算12年)

松島 稔氏(福井地区、地区理事16年)

③ 退任役員への感謝状贈呈

山越 隆氏(国府地区、常任理事6年)

山下 弘氏(松任地区、役員通算5年)

勇川隼人(能美地区、地区理事9年)

畔地 進(分校地区、地区理事5年)

④ 特別感謝状の贈呈(OB会設立にご尽力)

山本光栄氏(栗津地区、元労組栗津支部執行委員長)

東森 孝氏(寺井地区、元労組小松市部執行委員長)

第3号議案

①平成26年度行事計画について

向井良夫事務局長が提案説明（別掲）

②平成26年度会計予算について

細呂木谷光雄会計担当が提案説明（別掲）
以上について、原案通り拍手で承認

閉会の辞 前田昭則副会長

平成26年度 行事計画表

区分	行事名	実施日	場所
総 会	37回定期総会	4/23	市民センタ
旅 行	52回国内旅行	10/21-22	日光・鬼怒川
	26回海外旅行	11/6-13	南イタリア
(見学)	新組立工場見学会	9/上	粟津工場
スポーツ	16回グラウンドゴルフ大会	5/26	木場潟公園
	14回ゴルフ大会	9/26	小松CC
	14回パークゴルフ大会	9/30	木場潟公園
	ウオーキング遠征	5/22	白馬・八方
	ウオーキング近郊	10/7	遊泉寺銅山跡
文 化	第2回文化祭	11/27	松風荘
	会誌36号発行	3月	投稿募集
慶 弔	米寿・白寿のお祝	11月	対象者宅
	長期重度療養者見舞	6月・11月	介護3以上
	会員・配偶者死亡弔慰	都度	弔慰基準
	37回物故者追悼法要	6/14	紫雲閣
地域貢献	こまつの杜ボランティア	通年	
情報伝達	会報の発行	年4回	全員配布
	ネット活用勉強会	随時	
会員組織	定年退職者説明会	5月・11月	栗工
	新入会員名簿発行	1月	全員配布
	理事会・常任理事会	都度	
	地区連絡会	8/3	松風荘
	地区総会・行事	都度	各地区
対 外	他工場OB会交流	都度	
	県退職者連合	都度	

平成26年度 会計予算

収入明細

項目	前年度実績	26年度予算
繰越額	315,864	104,212
会員会費	5,240,500	5,113,500
入会金	92,000	85,500
賛助金	2,200,000	2,200,000
雑収入	417,609	417,609
合 計	8,265,973	7,920,821

支出明細

項目	前年度実績	26年度予算
定期総会費	630,600	660,000
地区助成金	1,025,000	992,000
旅行助成金	122,462	80,000
追悼法要金	316,380	310,000
共済費	1,865,772	1,850,000
会議費	108,096	100,000
会誌発行費	13,027,500	1,300,000
名簿発行費	100,275	95,000
事務局手当	580,000	580,000
会報発行費	390,848	370,000
通信費	238,352	230,000
地区事務費	218,500	215,000
クラブ活動費	280,362	250,000
地区連絡会議	174,091	170,000
雑費	199,144	210,000
名簿引当金	380,000	200,000
特別積立金	0	0
退職者連合費	70,000	70,000
文化祭	163,629	100,000
支 出 合 計	8,161,761	7,782,000
次期繰越額	104,212	138,821
合 計	8,265,973	7,920,821

特別会計の収支見込み

収入:名簿積立金 200,000円

支出:本年度支出見込みなし



出身職場ごとの昼食懇親会会場



松儀 怜先生の健康講座

昼食懇親会

出身職場ごとのテーブルで旧交を温める

総会終了後、小ホールに場所を移し、昼食懇親会を開催しました。

昨年同様今年も出身職場ごとに席について頂くことにしましたが、久しぶりのなつかしい仲間との昼食に話はずんだようです。

総合同会は前田昭則副会長（寺井）が担当。

最初に、わくわくコマツ館シニアアドバイザーの飴山善治氏から、日頃の御礼と今後のさらなる協力要請がありました。この後アトラクションとして①木村流大正琴ラフイーネ・サンピア教室の皆さんによる大正琴の演奏、②北陸体力科学研究所主任 松儀 怜先生による「よくある腰痛とその予防方法」のテーマで健康講座の講演が行われました。

第三十七回物故者追悼法要

セレモニー式場にて執行する

延べ 一千六百八十九名の先輩のご冥福を祈る

期日 平成26年6月14日(土)

午後2時30分

場所 小松市城南町

「サンレー小松紫雲閣」

平成二十六年度の物故者追悼法要は、六月十四日(土)午後二時半から、昨年度亡くなられた六十四名を含む、OB会設立以来の物故会員延べ一千六百八十九名の諸先輩を偲び、厳粛なうちに法要を行いました。

会場は昨年と同様市内のセレモニー式場において行いました。

当日は、ご遺族百五十四名、会社・ユニオン代表のご来賓九名、OB会員五十五名、あわせて二百十八名が参加のもと、菊で飾られた祭壇および両側に並ぶ法名軸、会社・ユニオンから届けられた成果を前に、先人のご冥福をお祈りいたしました。

法要は向井良夫事務局長の司会ではじまり、最初に西尾皓史OB会会長が挨拶を行い、次にご来賓を代表してコマツ常務執行役員栗津工場長の山下修二様、および、ユニオン北陸支部執行委員長の宮崎浩一様から、ご丁重なる追悼のご挨拶をいただきました。



また、追悼電報が大橋徹二コマツ代表取締役社長(兼)CEO、榊原公雄コマツユニオン中央

執行委員長ほか各方面から寄せられていることが披露されました。

このあと、市内本折町「本光寺」ご導師様によるお経があげられる中、昨年度亡くなられた方のお名前が読み上げられ、ご遺族がお焼香、続いて参加者全員が順次焼香を行いました。



ご法話のあと、ご遺族を代表し、中海地区の故中田外治様の娘婿にあたられる船曳祥男様より謝辞が述べられ、前田昭則OB会副会長の閉会の辞で終了しました。

なお、当日ご多忙の中参列いただいたご来賓は、ご挨拶された二名のほか次の方々でした。
川西金沢工場長、斉藤栗津総務部長、相田特機事業副本部長、森林ユニオン副委員長、加藤栗津総務課長、紺谷総務部主査、魚岸栗津庶務課員の皆様でした。

国内旅行 通算五十二回

紅葉の日光・華厳の滝・鬼怒川温泉

コマツ茨城工場の大建機ラインを見学

期日 平成26年10月21日（火）

10月22日（水）

行先

日光・華厳の滝、鬼怒川温泉泊
コマツ茨城工場、水戸偕楽園など

平成二十六年度の国内旅行には、四十五名参加し、日光東照宮、華厳の滝やコマツ茨城工場を見学してきました。



十月二十一日早朝、大型バス一台で小松を出発した一行は、紅葉の金精峠、中禅寺湖を眺めながら午後、華厳の滝に到着しました。

その後、いろは坂を経て日光東照宮へ。ここからは、専任ガイドさんのご案内で輪王寺、東照宮を見学。

この夜は、鬼怒川温泉「きぬ川ホテル三ヶ月」にて宿泊。夕食懇親会ではカラオケを楽しみ、今日の長旅の疲れを癒す。

翌二十二日には、茨城県ひたちなか市にあるコマツ茨城工場を見学した。

茨城工場は、大型ダンプトラックや大型ホイローダーなど輸出中心の大型建設機械の供給拠点であり、約五年前に真岡工場より移管された新しい工場である。

工場では、最初に藤田直樹コマツ執行役員茨城工場長（写真）より歓迎のご挨拶をいただき、砂田 浩総務部長より工場概要の説明があり、

大型建設機械の迫力ある組立ラインなどの見学をさせていただいた。



OB会では、これまで工場見学シリーズとして、金沢工場、キャステックス（氷見）、NTC（南砺市）、大阪工場（以上日帰り）小山工場（二泊二日）を見学してきた。

工場見学のあと、水戸市にある名勝「偕楽園」を見学。あいにくの雨でしたが、昼食を摂った後兼六園、後樂園と並ぶ日本三名園といわれる園内を散策する。

午後十時過ぎ、無事帰途についた。

ウォーキングの集い

「白馬・八方」塩の道を歩く

遊泉寺銅山跡ウォークも実施

期日 平成26年5月22日（木）

場所 白馬村（長野県）

「塩の道・千国街道」は、その昔上杉謙信がこの道を経て、仇敵武田信玄に塩を送ったという有名な話が今に伝えられています。今回はその一部、白馬村周辺を歩きました。

参加者三十六名はバスにて朝六時に小松を出発。まずまずの天気と思っていました。白馬村到着ごろには雨が降り出しました。



あいにくの雨になりましたが、全員雨具を着

用して午前十時に八方バスターミナル（BT）を元気にスタートしました。今回はそれぞれの体調に合わせて3コースを設定しました。

●Aコース（7Km）：八方BT→オリンピック大橋→エコランド→白馬ジャンプ競技場→

諏訪神社前→八方BT（ゴール）

●Bコース（5Km）：八方BT→オリンピック大橋→エコランド→白馬ジャンプ競技場（ゴール）

●Cコース（2Km）：八方BT→諏訪神社→白馬ジャンプ競技場（ゴール）

白馬ジャンプ競技場では昼食の後、リフトを利用してジャンプ施設を多くの方が見学しました。帰途、近くの温泉「エスカルプラザ竜神の湯」で入浴して帰りました。

遊泉寺銅山跡ウォーク

期日 平成26年10月7日（火）

場所 遊泉寺銅山跡

コマツ発祥の地である遊泉寺銅山跡ウォークには22名が参加しました。

天候にも恵まれ、午前八時四十五分にロードパーク「中海の里」を出発。体調に合わせて2コースを設定しました。

●Aコース（9Km）：中海の里→遊泉寺銅山跡記念碑→砂山頂上 往復

●Bコース（6Km）：中海の里→遊泉寺銅山跡記念碑 往復

途中、安元二年（一一七四）に起こったといわれる「涌泉寺事件」の跡や「ハニベ岩窟院」にも立ち寄りました。



海外旅行 通算第二十六回

南イタリア世界遺産周遊8日間の旅

期日 2014年（H26年）

11月6日（木）～11月13日（木）

行先 南イタリア

- 6日 参加者二十六名は、関西空港からアリタリア航空直行便にてローマへ。
- 7日 カゼルタ王宮、カロリーノ水道橋を見学後とんがり屋根で有名なアルベロベッロへ。
- 8日 世界遺産「アルベロベッロ」の観光。その後、洞窟住居群で有名な世界遺産「マテラ」を見学してナポリへ。
- 9日 世界遺産「アマルフィ海岸」の観光へ。
- 10日 ナポリ湾から高速船でカプリ島へ。
- 11日 ナポリ市内観光。
- 12日 午前中は自由行動。午後にはローマから再びアリタリア航空で帰国の途に。
- 13日 正午近くに関西空港へ無事到着。



栗津工場新組立工場見学会

期日 平成26年9月2日（火）

9月4日（木）

今年5月に完成した、栗津工場新組立工場の見学会を2日間に分けて実施した。参加者は、9月2日は48名、9月4日は49名であった。最新の省エネ・ICT・生産技術を取り入れたCLライン、WLラインの広々とした組立工場のほか、技能者のレベルアップを目指す新トレーニングセンターや安全道場も見学した。



平成二十六年
スポーツ・文化・共済・ボランティア 活動報告

第十六回 グラウンドゴルフ大会

□開催日 5月26日(月)

□場 所 木場潟公園

□参加者 66名

□大会成績(4Rスコア)

男性の部

優勝 儀田勝治(八幡) 78

準優勝 下畠利夫(美川) 79

第3位 益田 孝(符津) 79

第4位 前田昭則(寺井) 80

第5位 染井弘之(寺井) 80

女性の部

優勝 長 和子(矢田野) 85

準優勝 中村千代子(東陵) 86

第3位 儀田紀子(八幡) 87

ホールインワン賞(指定ホール)

染井弘之、坊田四十二、北口啓二

上田喜美子、下畠利夫



第十四回 パークゴルフ大会

□開催日 9月30日(火)

□場 所 木場潟公園 サクラ・メダカコース

□参加者 61名

□大会成績(2Rスコア)

男性の部

優勝 寺井清弘(動橋) 96

準優勝 盛戸良三(根上) 98

第3位 中村 捷(御幸) 100

第4位 田中祈良志(国府) 104

第5位 山根健一(苗代) 104

女性の部

優勝 太田美智子(八幡) 106

準優勝 竹村ミツ子(松東) 111

第3位 萩本慶子(国府) 112

ホールインワン賞

川端雄大、新谷俊英



第十四回 ゴルフ大会

□開催日 9月26日(金)

□場 所 小松カントリークラブ

□参加者 61名

□大会成績(Wペリア方式 スコアはネット)

優勝 飛田勇治(矢田野) 72・8

準優勝 中川和雄(矢田野) 73・0

第3位 森 育雄(符津) 73・2

第4位 松林廣中(辰口) 73・2

第5位 山下賢司(中海) 73・2

ベストグロス賞 中川和雄(矢田野) 79



第二回 文化祭を開催

□開催日 11月27日(木)

□場所 コマツ松風荘(小松市木場町)

□参加者 約八十名

①文化講演会

「第66回全国植樹祭の開催に向けて」

講師 石川県農林水産部全国植樹祭

推進室室長 山王 竹夫氏



②カラオケ大会 出演者17名

最優秀歌唱賞 横山信一(上小松)

優秀歌唱賞 河村良平(寺井)、

同 得田邦夫(矢田野)

努力賞 加端 克、河原達夫、澤井恒信、

大島芳江、村口 滋、

熱演賞 中西伸一
特別賞 本庄惇子、前川重雄
審査委員6名で審査(委員長山本忠男氏)



③囲碁大会 参加者9名

Aグループ優勝 堂道剋良(犬丸)

同 準優勝 中野昭彦(東陵)

同 第3位 北口邦男(符津)

Bグループ優勝 宮崎与志嗣(大聖寺)

同 準優勝 杉原国雄(山代山中)

同 第3位 山 勝三(東陵)

④将棋大会 参加者16名

Aグループ優勝 堀川一成(月津)

同 準優勝 勘田 穰(上小松)

同 第3位 柴田忠雄(福井)

Bグループ優勝 鶴賀伸夫(芦城)

同 準優勝 村田真二(根上)

同 第3位 北村昭之(牧)

退会要領とともに、段級位によりA・Bグループに分け、予選2回戦戦った結果、成績上位4名

の決勝トーナメントで順位を決定



⑤折り紙教室

講師 中村 博氏(松任)

前田昭則氏(寺井)

参加者 12名



米寿のお祝い

平成26年めでたく米寿を迎えられた大正15年・昭和元年(1926年)生れの25名の方々に
お祝をお届けしました。(写真 16頁〜17頁)

中田正紀(根上)、北出留雄(寺井)

西田正一郎(寺井)、北村 学(湯谷)

小松 一(湯谷)、坂下俊一(国府)

新谷幸次郎(国府)、北 敏夫(国府)

山田外治郎（中海）、田中重隆（中海）
奥村明広（中海）、山上賢治（中海）
中西廣一（東陵）、東山芳雄（八幡）
吉本 勇（上小松）、新地俊男（松東）
前川重雄（牧）、岩本寅造（芦城）
井須公栄（今江）、生駒 陸（符津）
永吉清治（矢田野）、横山外治（分校）
米谷安之（大聖寺）、中村三郎（大聖寺）
山下文生（福井）

長期重度療養者へのお見舞い

3ヶ月以上に亘り療養し、且つ介護度3以上と認定された方にお見舞いを差し上げました。

平成26年上期14名、下期 2名

亡くなられた方への弔慰

平成25年4月～26年1月末日までに亡くなられた方は次の通りで、弔慰基準に基づき弔慰を表しました。

- ・会員本人の死亡59名
- ・お香典（一万円）、生花一基、弔電、OB会旗を掲出し、地区代表が弔問しました。
- ・会社からは、社長名の弔電、工場長または事業所長名の生花をいただきました。
- ・会員配偶者の死亡 8名
- ・お香典、弔電、地区代表が弔問しました。
- ・追悼法要の執行

OB会設立以来、平成26年3月までの物故会員1689名の追悼法要を6月執行しました。（別掲）

県退職者連合グラウンドゴルフ大会

- 開催日 5月15日（木）
- 場 所 金沢市民芸術村広場
- 参加者 コマツから6組30名（全277名）
- 大会結果

団体の入賞はありませんでした。
個人の部 優勝
米田清忠（根上） スコア 67

里山保全に竹林間伐ボランティア

石川県退職者連合が行う里山保全活動の一環として、加賀市橋立自然公園に増えてくる竹林の間伐作業ボランティアに、今年度も参加しました。（2回）

- ①4月24日（木）
上村理事はじめ大聖寺地区会員と本部役員を含め、16名が参加し、太く繁った竹をノコギリで間引きする作業に汗を流しました。
- ②11月20日（木）
14名参加



こまつの杜ボランティア活動

こまつの杜が開設されて2年半が経過、すでに延べ21万人を超える方が入園されています。OB会では、次の4つの部会に分かれてボランティア活動を行っております。

○コマツ館スクスク教室部会

コマツ館2階の教室にて、小学生を対象に理科その他の学習、夏休みの宿題の手伝いを通じ、理科や物づくりへの興味を抱くきっかけとなるカリキュラムを作り実行。

○里山イベント部会

里山の木々、草花、小川などの自然観察を通して、こどもたちが自然に興味、関心を持ち、自然の中で遊ぶ楽しさを感じさせるようなイベントを企画し実行。

○里山グリーン部会

里山、広場、小川ゾーンでの小川清掃・落葉回収などの清掃ボランティア、および、花壇の手入れ、季節の花植えボランティアなど交代で作業にあたる。

○サポート部会

超大型ダンプトラック930E、ミニ油圧ショベルの試乗をはじめ、来館者やイベントなど、こまつの杜やわくわくコマツ館運営のサポートを行う。

こまつの杜OBボランティア 募集中！

新たにボランティア参加いただける方は、地区役員・委員に希望部会をお申し出下さい。

コマツ栗津工場OB会 会誌第36号 総合目次

表 題	地 区	氏 名	頁
巻頭のご挨拶	OB会会長	西尾 皓史	1
第37回定期総会を開催：行事計画・予算など決定			2
第37回物故者追悼法要 セレモニー式場で執行			4
国内旅行：紅葉の日光・鬼怒川温泉と茨城工場見学			5
ウォーキングの集い：「白馬・八方」、「遊泉寺銅山跡」			6
海外旅行：南イタリア世界遺産、栗津工場新組立工場見学会			7
スポーツ・文化・共済・ボランティア活動報告			8
会誌36号 総合目次			11
平成26年度 OB会役員の紹介			12
平成26年度 行事フォト・ハイライト			14
米寿の皆さん おめでとうございます			16
地区活動 フォトメモリー	各地区		18
こまつの杜OBボランティア活動報告			24
南イタリア世界遺産周遊8日間の旅	稚松地区	釜本 隆司	30
海外現地生産のこと（その4）	国府地区	西尾 皓史	33
モノづくり体感スタジアム出展	犬丸地区	今西 和夫	35
極上ジジイ	矢田野地区	松田 靖雄	37
こまつの杜へ参加して	符津地区	宮越 信夫	38
栗津工場山岳部 五十周年に寄せて	芦城地区	園部 荘一郎	39
戦死した父の慰霊祭で涙あふれ	美川・川北地区	平野 松雄	40
高齢者の生きがい 健康生活始めよう	東稜地区	川上 靖雄	41
わが生い立ちの記—わたしの履歴書（4）	東稜地区	小枝 敬一	43
脳腫瘍騒動記	東稜地区	山 勝三	46
欧米と日本の「自由と正義・不正義」	向本折地区	小枝 俊弘	48
「らららクラシック」	符津地区	北野 正敏	53
駅伝（エキデン）その一	寺井地区	本多 政明	54
嬉しい再会	寺井地区	前田 昭則	55
コマツOBゴルフ同好会の紹介	蓮代寺地区	山田 俊昭	56
コマツOBグラウンドゴルフ同好会の紹介	符津地区	宮越 信夫	57
【資料】小松製作所栗津工場OB会規約			58
編集後記、次号原稿募集、発行者			60
表紙「栗津工場新組立工場」 表紙の裏に説明文	上小松地区	向井 良夫	
フォトアルバム（裏表紙の裏）	東稜地区	川崎 則雄	
フォトアルバム（裏表紙の裏）	金沢地区	沢村 勝義	
裏表紙「新しい北陸、はじまる」	金沢地区	沢村 勝義	

平成26年度 OB会役員の紹介

理 事 金沢地区  中 田 侃	副会長  前 田 昭 則	副会長  竹 田 敏 洋	副会長  宮 崎 紀 代 二	会 長  西 尾 皓 史
理 事 辰口地区  後 口 修 司	会 計 監 査  菊 澤 光 平	会 計 監 査  大 野 友 治	会 計 代 行  川 畑 与 明	事 務 局 長  向 井 良 夫
理 事 荒屋地区  大 橋 外 男	常 任 理 事  小 枝 敬 一	常 任 理 事  荒 木 義 昭	常 任 理 事  山 田 俊 昭	常 任 理 事  山 下 久 輝
理 事 稚松地区  洲 崎 利 圭	常 任 理 事  坊 田 四 十 二	常 任 理 事  村 田 真 二	常 任 理 事  中 本 久 治	常 任 理 事  村 井 進
理 事 符津地区  河 原 達 夫	常 任 理 事  阿 木 清 隆	常 任 理 事  北 野 邦 夫	常 任 理 事  園 部 莊 一 郎	常 任 理 事  大 間 豊 光
理 事 動橋地区  村 口 滋	蓮代寺地区理事 山田俊昭が兼務 H27.1月より 今江地区理事 高橋他二郎へ交代 H27.2月より 月津地区理事 高橋政一へ交代			会 計  細 呂 木 谷 光 雄

平成26年度 OB会役員の紹介

理 事 湯谷地区



松本好太郎

理 事 寺井地区



河 村 良 平

理 事 根上地区



高 田 龍 蔵

理 事 美川北地区



平 野 松 雄

理 事 松任地区



野 田 正 記

理 事 犬丸地区



今 西 和 夫

理 事 能美地区



竹 内 吉 昭

理 事 東陵地区



吉 村 茂

理 事 中海地区



山 崎 和 夫

理 事 国府地区



山 本 孝 義

理 事 牧 地区



北 村 昭 之

理 事 安宅地区



豊 岡 正 俊

理 事 苗代地区



新 谷 信 秀

理 事 松東地区



小 倉 政 信

理 事 八幡地区



福 田 恵 一

理 事 月津地区



村 井 耕 一 郎

理 事 御幸地区



臼 岩 正 博

理 事 今江地区



西 田 政 彦

理 事 向本折地区



小 枝 俊 弘

理 事 芦城地区



豊 岡 外 輝 男

理 事 分校地区



南 出 保

理 事 山代山中地区



下 出 博 明

理 事 那谷地区



山 下 豊

理 事 矢田野地区



得 田 邦 夫

理 事 粟津地区



中 田 威 蔵

婦人部副部長



福 井 ひ ろ み

婦人部副部長



佐 伯 和 枝

婦人部部長



福 田 幸 代

理 事 福井地区



谷 川 栄

理 事 大聖寺地区



上 村 純 二

平成26年度 行事フォト・ハイライト

第37回定期総会 H26.4.23(木) 小松市民センター



和田市長、山下工場長など来賓の皆さん



出身職場別の昼食懇親会



新任常任理事の紹介



新任地区理事の紹介

第37回物故者追悼法要 H26. 6. 14(土) サンレー小松紫雲閣



僧侶の読経で法要の開始



参列者全員で焼香



ご遺族の皆さん



ご遺族の皆さん

平成26年度 行事フォト・ハイライト

第2回文化祭 H26. 11. 27(木) 松風荘



熱戦（囲碁・将棋大会）



熱唱（カラオケ大会）



折り紙教室

国内旅行 日光と茨城工場見学 H26. 10. 21(火)～22(水)



華嚴の滝にて



輪王寺でガイドさんの説明を



コマツ茨城工場見学

海外旅行 南イタリア世界遺産周遊8日間 H26. 11. 6(木)～13日(木)



ナポリの港町を望む高台にて



マテーラの洞窟レストランにて昼食

白馬・八方ウオーク H26. 5. 22(木)



遊泉寺銅山跡ウオーク H26. 10. 7(火)



米寿の皆さん おめでとうございます

平成26年に88歳の米寿を迎えられた25名の皆様には、心からお祝いを申し上げます。



寺井 西田 正一郎さん



寺井 北出 留雄さんご夫妻



根上 中田 正紀さんご夫妻



国府 坂下 俊一さんご夫妻



湯谷 小松 一さんご夫妻



湯谷 北村 学さんご夫妻



中海 山田 外治郎さん



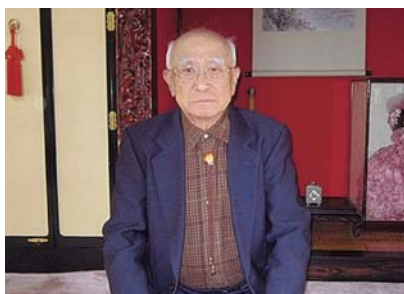
国府 北 敏夫さんご夫妻



国府 新谷 幸次郎さん



中海 山上 賢治さんご夫妻



中海 奥村 明広さん



中海 田中 重隆さんご夫妻

大正15年・昭和元年の出来事・・・

12月25日大正天皇が崩御され、即日皇太子裕仁親王が即位され、年号が昭和に改元された。

日本放送協会(NHK)誕生。「伊豆の踊子」(川端康成)完成



上小松 吉本 勇さん



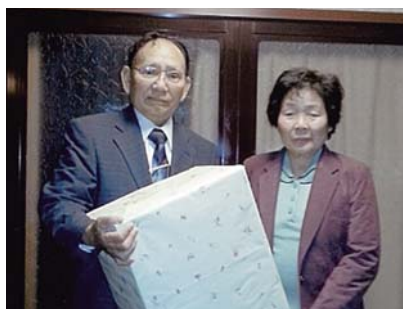
八幡 東山 芳雄さんご夫妻



東陵 中西 廣一さんご夫妻



芦城 岩本 寅造さんご夫妻



牧 前川 重雄さんご夫妻



松東 新地 俊男さん



矢田野 永吉 清治さん



符津 生駒 陸さん



今江 井須 公栄さん



大聖寺 中村 三郎さんご夫妻



大聖寺 米谷 安之さんご夫妻



分校 横山 外治さんご夫妻



福井 山下 文生さん

地区活動 フォトメモリー



辰口地区 総会

H26.3.22 辰口福祉会館 26名

平成25年度の行事報告と収支決算報告、平成26年度の行事予定と役員選出を行った。

会員と家族のグラウンドゴルフ大会

H26.5.31 物見山グラウンドゴルフ場 24名

大会終了後、辰口福祉会館にて懇親会を行う。

報告 後口修司



国府地区 総会

H26.3.29 国府公民館 63名

山下会長挨拶、出戸市議員祝辞の後、H25年度活動報告と会計報告の承認、H26年度活動計画と予算が承認された。その後、西尾OB会会長より「コマツOB会の動きについて」の講演があり、引き続き懇親会を行いました。お楽しみ抽選会と盛り上がり、万才三唱で閉会。

報告 山本 孝義



美川・川北地区 総会

H26.7.5 幸庵(白山市西米光町) 28名

平成23年に総会を開催して以来、地区の事業を行っていなかったため、今回役員改選されたのを機会に総会兼懇親会を開催。H22年以降の事業及び収支会計報告の後、盛大に懇親会を行う。

報告 平野松雄

寺井湯谷地区 総会

H26.3.15 さらい(能美市石子町) 29名

午前中はH25年度の地区活動状況の報告と会計報告、H26年度の予算等の議案について、前田会長の挨拶の後討議がなされた。午後から会食し、親睦を和気あいのうちにおこなわれました。

報告 荒木義昭



根上地区総会と講演会

H26.3.22 クアハウス九谷 22名

H24年からの活動報告と会計報告を承認し、次期活動計画、グラウンドゴルフ、パークゴルフ大会などを決定。村田真二常任理事よりコマツの現況とOB会の報告があり、その後能美市議会の米田敏勝副議長の講演があった。夕方より懇親会を開き、有意義な一時を過ごした。

報告 高田 龍蔵

地区活動 フォトメモリー



犬丸地区 総会

H26.3.9 南月楼(大川町) 9名

会員異動の報告 地区会員は43名→40名になった。
26年度役員を決定 地区理事 今西和夫(島田)
委員は、林 潔(島田・梯)、中村武司(犬丸・松梨)、
高橋 進(大島・蛭川)、今西和夫(城北)
25年度会計報告を承認

報告 山崎 雅弘



中海地区 総会

H26.3.8 赤穂谷温泉 18名

総会では、H25年度経過報告と会計報告を承認。
新地区委員を報告承認。
懇親会では、最先輩の山上賢治さんの発声で乾杯して開始。
大変なごやかで楽しい時間を過ごし、西木戸寛久さんの一本
メで散会。

報告 山崎和夫

国府地区 遊泉寺銅山跡公園 清掃ボランティア



H26.8.1
OB会員有志 22名



GG大会



国府地区 グラウンドゴルフ大会

H26. 7. 12 国府地区グラウンドゴルフ場
男性の部 優勝 川崎博通、2位 出戸清克、
3位 高 信幸
女性の部 優勝 竹村豊子、2位 田中久枝、
3位 餅山加津恵

報告 山本 孝義



東陵地区 総会

H26.6.8 東陵会館 29名

会長挨拶、H25年度経過報告と会計報告、H26年度役員
を承認。新役員を代表して吉村が挨拶。全員で記念撮影。
親睦会は、最長老の平野さんの発声で乾杯し開始、
ビデオ鑑賞(本部定期総会や文化祭の様子)しながら
昼食、飲物にて有意義な時間を過ごし親睦を深めた。

報告 吉村 茂

地区活動 フォトメモリー



苗代地区 総会

H26.3.1 吉竹町「どん吉」 21名

平成24、25年度経過報告を承認
このあと、前理事の林 外治氏の乾杯で懇親会に移る。
宴会の途中に和田市長が見えられ、市長を交えて楽しく
歓談した。
最後に石堂俊明氏の閉会の挨拶で散会とした。

報告 河波 忍



八幡地区 総会

H26.3.29 サンルート小松 13名

総会のはじめに、亡くなった谷 兼吉様、村先孝二ご
令室のご冥福を祈って黙祷をさされた。総会に入り、
H25年度会計決算報告が承認され、新会員が紹介され
た。この後「コマツの近況」について、東出 篤氏より現
在建設中の組立工場及び海外工場の様子が紹介され
た。トピックスとして、「福島原発事故調査」解説書をも
とに、原発事故に関して、福田から話題提供があった。
懇親会ではなごやかな雰囲気楽しい時間を過ごした。

報告 福田恵一



蓮代寺地区 総会

H26.3.8 松風荘 12名

H25年度経過報告、会計報告、物故者・新会員を報告。

石川一夫さんの乾杯の音頭で懇親会。
昔の話、近況で盛り上がる。
中島久人さんの一本で散会。

報告 吉田 晋



松東地区 総会

H26.3.20 松風荘 16名

総会

H25年度経過報告、会計報告及びH26年度の役員案
を報告し、満場一致で承認された。
また、H26年度のOB会行事予定案を報告し、積極的に
参加するよう依頼するとともに、こまつの杜里山ボラン
ティアにも積極的に参加するよう依頼した。

懇親会

久しぶりに旧交を温め、カラオケで自慢ののどを披露
シ、大いに盛り上がった。

報告 小倉 政信

地区活動 フォトメモリー



稚松地区 総会

H26.3.23 小松まちづくり交流センタ 20名

総会では、H25年度活動状況、会計、新役員について審議承認されました。

引き続きの懇親会では、朝岡孫明氏の乾杯の発声ではじまり、ビンゴゲームで大いに盛り上がり、村中 果氏の中締めで、楽しい時間を過ごしました。

報告 洲崎 利圭



安宅地区 総会及び新会員歓迎懇親会

H26.3.8 安宅町「安宅之関ビューテラス」 10名

※ H25年度地区活動報告、会計報告、こまつの杜 ボランティア活動、里山の状況報告。

※ 今年も会員相互の懇親会を企画し、会員の親睦を積極的に実施した。今回は地元の貢献を重視し「安宅之関ビューテラス」にて会員相互が楽しい一時を過ごした。近所においても、顔を合わす機会が少ない為、今後は小さな行事を企画し、会員相互を図る計画。

2時間半でしたが、相互の親睦が図られたと思います。
※ 「梯川ゴミ拾い」クリーンビーチ石川のボランティア活動に参加し、その他町内活動に積極的に参加し、地域の貢献に励みます。

報告 豊岡 正俊



向本折地区 総会

H26.3.2 松風荘 10名

総会の冒頭に平成25年度中に亡くなられた会員のご冥福を祈って1分間の黙祷をし、引き続き平成25年度の活動報告(中間)を説明し、質疑応答した。

その後会場を変えて懇親会を開き、久しぶりのコミュニケーションを図り、2時かいとしてカラオケを楽しんだ。

報告 小枝 俊弘



芦城地区 総会

H26.5.30 なかの(大和町) 10名

報告 豊岡外輝男

地区活動 フォトメモリー



動橋地区 総会

H26.3.27 松風荘 8名

動橋地区は47名の会員数を有しているが、毎年の総会出席者が8～9名程度で推移しており、今後は総会以外のイベント等も考えていかなければならないと思う。唯一新入会員の北出邦雄氏が出席され、全員で歓迎した。

報告 村口 滋



平成26年2月14日 コマツOB会 今江地区総会

今江地区 総会

H26.2.14 くら魚(今江町) 15名

報告 木戸口 進



福井地区 総会

H26.3.7 あわら温泉 灰屋 11名

1. 経過報告及び会計報告
2. 長期重度療養者の現状報告
3. 高齢者の報告(87～90才)
4. 役員改選 地区理事 → 谷川 栄
地区委員 → 鶴城 誠

総会後懇親会

高橋さんの乾杯で始まり、楽しい一夜になりました。

報告 松島 稔



山代・山中地区 総会

H26.3.17 山中温泉 ホテル翠明 21名

今年度は過去最多の6名の会員が逝去され、全員で心よりご冥福を祈り黙祷をささげた。2名の新会員紹介、米寿会員1名、長期重度療養者2名の報告を行い、審議に入り仮活動報告、仮会計報告が承認された。

また勅使地区が多人数のため、区割り変更の提案があり、3地区に変更することに決定。

懇親会では大いに飲み、語りで宴会が盛り上がり、2次会のカラオケもマイクの取り合いで、益々気力アップで親交を深めることができました。

報告 下出博明

地区活動 フォトメモリー



国府地区 秋の慰安会

H26.11.12 ホテルながやま(片山津温泉) 25名

昼食会と演劇観賞

報告 山本孝義



根上地区 特養ボニール根上苑 見学

H26.3.22 社会福祉法人喜峰会(特別養護老人ホーム
ボニール根上苑)施設見学(総会前に) 14名

村上・松上職員より施設説明と施設案内を受ける。

①特養老人ホーム80床、②ショートステイ20床、③デイサービス、④居宅介護支援、⑤小規模多機能(①～⑤要介護認定)、⑥ケアハウス「メソンスワニエ」(要介護認定なくとも60才以上入居可能)

参加者の感想として、施設全体は非常に立派で要介護入居者の方に配慮されている。特にケアハウスの方はホテルのようだが、入居希望者が多く入居できない。しかし要介護度入居者を見ると、少しでも元気で自宅ですごしたいとの話が聞こえる。

報告 高田瀧蔵

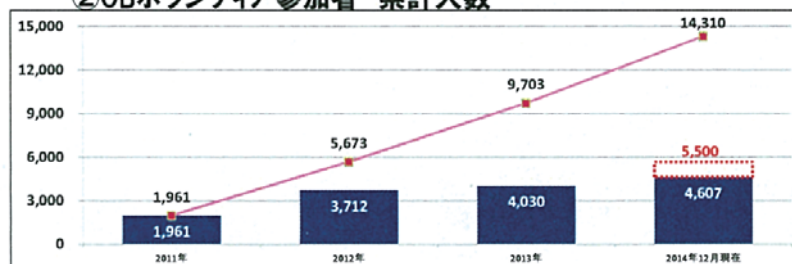
こまつの杜 OB ボランティア活動 2014年度 活動状況報告 (2014年4月～2014年12月)

コマツ栗津工場OB会 特定非営利活動法人 みどりのこまつスクスク会

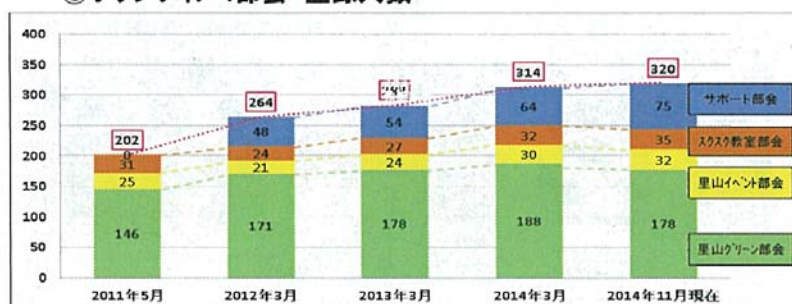
①こまつの杜 来園者状況



②OBボランティア参加者 累計人数



③ボランティア4部会 登録人数



④4部会 活動

部会	部会長
1.スクスク教室部会	石田 進
2.里山イベント部会	中本 久治
3.里山グリーン部会	大間 豊光
4.サポート部会	洲崎 利圭

1. スクスク教室部会 部会長：石田 進

2014年度年間活動計画 計57回

	対象	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計画
理科教室	小学3～6年		8回		4回	12回
わくわくサイエンス	保育園児		7回	5回		12回
出前教室	学童 小学1～3年		5回		2回	7回
社会科見学	小学5年生		17回			17回
モノづくり体感スタジアム	小学4～6年	会場：東京(青山学院大学)				1回
カンボジア理科教室	コマツ小学校(1～6年)			カンボジア：コマツ小学校		1回
宿題支援教室			冬休み支援教室	アート教室		1回
コマツ館行事	幼児 ①にまつの杜誕生祭 ②夏祭り ③秋祭り ④ワークショップ ～小学生					4回
おしごと体験(地域との交流)	小学3～6年			小松市主催		1回

2014年度 活動計画(見込み)・・・理科教室のテーマと講師

NO	2014年度	理科教室テーマ	講師
1	4月	魚が泳いだり沈んだり	湯浅
2	5月	こども鎗物教室	今西
3	6月	リニアモーターカーを作ろう	常道
4	7月	こども鎗物教室(モノづくり体感スタジアム向け)	今西
5	8月	デコの原理と使われている道具	石田
6	9月	「錯覚の部屋」紙工作(新テーマ)	織本
7	10月	ウインドカー(新テーマ)	河村
8	11月	リンクってなあーに	杉本
9	12月	配線カーを使ってジェットコースター(新テーマ)	平井・中山
10	1月	親子でマイカップを作ろう	河村
11	2月	空気砲	山口・平井
12	3月	金属は教からかくてのびる	湯浅



モノづくり体感スタジアム in2014「こども鎗物教室」出展



東京：青山学院大学にて(2014年8月29・30日)

夏祭り・・・8月2日

秋祭り・・・10月12日



理 科 教 室

理科教室 リンクってなあーに：油圧ショベルのふしぎ(11月) 油圧ショベルのリンク機構を応用した拡大器の製作



理科教室 ジットコースターを作って遊ぼう(12月) 配線カーを使ってジェットコースターのコースを作る



理科教室 アート教室(12月) 手作りのオブジェやコラージュ作品を作る



理科教室 楽しい習字教室(1月) 上手に書けるコツを指導



理科教室 ③こども鎗物教室(5月)



理科教室 ④リニアモーターカー(6月)

スタッフと子供が一体になって模型作り



理科教室 錯覚の部屋(9月)

親子で錯覚の部屋を紙工作で製作



理科教室 風に向かって走れウインドカー(10月)

公益社団法人 自動車技術会中部支部と共同開催



出前教室



⑤出前教室 (4学室×各2回＝計8回／年)



⑥わくわくサイエンス (4保育園×3回＝計12回実施)



出前教室 モノづくり体感スタジアム in2014



2. 里山イベント部会 部会長：中本久治

サツマイモ掘り 9/14



里山きのこ教室 11/22



①2014年里山イベント部会 年間計画

	4～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
カブトムシ観察チーム	6月開始～カブトムシの観察	7/25 カブトムシと生きもの観察会 8月下旬～カブトムシの飼育		
きのこ山観察チーム	6/14 実習観察としおり作り		11/22 里山きのこ教室	
水田・水辺環境改善チーム	5/15 サツマイモ苗とヒマワリの播種 6/1 水田の観察 6/27 水田の観察	6/6 ヒマワリの追肥 7/29 水田の観察	6/4 サツマイモの収穫 10/4 ヒマワリの収穫	
むかし遊び道具づくりチーム		7/29 最後の紙ひこうきを作ろう！ 7/31 昔ながらのたんとぼく	11/21 紙ひこうき作り観察会 12/24 米糠油シオリ	3/25 26 紙ひこうき教室
地域との交流他	5/1～ 里山東西製作会	6/21 米糠油シオリ 7月 完成		

サツマイモとヒマワリの栽培(5月～10月)



カトムシの飼育と生き物観察会(7月)

カトムシの飼育(観察日誌)



カトムシの観察小屋



カトムシと生き物の観察会 7/25



里山の生き物の観察



カトムシの館の中でクワガタの観察

カトムシをもらってハイ！ポーズ



葉っぱの観察としおり作り、フナの放流(6月)

フナの放流。
手掴み出来る子、出来ない子さまざまでした。



古谷先生の周りには葉っぱの名前を聞く子供達でいっぱい、好奇心旺盛でした。



里山で採集した葉っぱを観察してスケッチ。みなさん真剣です。



スケッチした絵と収集した葉っぱをラミネート加工し、しおりの完成です！



むかしの遊びや道具作り(7月)

最強の紙ひこうきを作ろう！7/29



ヤリ・ヘソ・ツバメ飛行機の3機を作りました。

作った飛行機を実際に飛ばし、測定会を行いました。



1年～3年生の29名の男の子が参加して頂きました。

昔ながらの竹とんぼづくり7/31



小刀で竹を削る作業をO.B.と一緒に体験しました。

完成した竹とんぼをみんなでいっせいに飛ばしました。



小学校4、5年生の6名の参加。皆、初めての体験でした。

ホタルの誕生(6月)と幼虫の放流(10月)、他

6月17日
こまつの杜にホタルが誕生！
今年は2匹のホタルを確認。



7月：里山看板が完成



6月18日
カモのつがいがい小川に遊びに来る。鯉と一緒にバチリ。



10月：ホタルの幼虫を放流



組ひも作り練習会 / 里山きのご教室(11月)

組ひもづくり練習会 11/11



11月11日
小松市内の埋蔵文化財センターにて組ひもづくりの練習会実施。



組ひもが完成！



春休み3月25日、26日にコマツ館にて組ひも、折紙教室を開催予定。
組ひものストラップ、折紙の手提げバック・玉手箱の作成を子供達に伝授。

里山きのご教室 11/22



11月22日
親子7組11人が参加。
山下重さんによるきのご学習の後、里山にてしたいけとなるこを採取。



ほだ木への雷打ちでは、慣れない木槌を使っての体験でしたが、ここからしたいけが出てくると説明を受け、一生懸命作業実施。



(地域との交流)木場潟キャンドルナイトウォーキング(8月) カトムシの館補修(8月下旬～10月)

木場潟キャンドルナイトウォーキング8/23



木場潟公園の道沿いや芝生に約6000個のキャンドルを置く活動に参加。



午後6時から集まり約1キロにキャンドルを設置。



幻想的な夜を演出

カトムシの館補修 8月下旬～10月



昨年7月に完成した「カトムシの館」夏休みに子供達に分けるカトムシを育てています。



「カトムシの館」の補修。ヨシで補強。



約2ヶ月かけて「カトムシの館」の補修作業が終了。

3. 里山グリーン部会 部会長：大間豊光

稲刈り 9/24



田んぼPJ活動(イベント部会と共同):9月～10月

稲刈り(9/24)と脱穀(10/1)

坂田好昭さんによるお話し



稲刈り



稲架掛け



山口理事長、岡田常務も参加



清水健治さん指導のもと脱穀(10/1)

2014年里山グリーン部会活動計画

活動項目	体制	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	備考
・里山の清掃	男性 16グループ (延べ 2,198名)	清掃(60回)	20人～40人/回			・出席率 69% (前年度 55%)
・花壇づくり	女性 1グループ (延べ 153名)	花植え①6/20		花植え②11/12		
		草取り		草取り		
	<登録人数> 男 159名 女 19名 計 178名					
田んぼPJ	(1)里山イベント 部会と共同で実施 (2)"かぐらもち" の栽培	免足(2月) 田植え5/20 草取り	稲架作り (9/11)	(9/24)(10/1)→ 稲刈り、乾燥 脱穀	替づくり (12/17) しめ縄作り (12/2)	鏡餅(12/23)

田んぼPJ活動(イベント部会と共同):10月～12月

稲干し(10/1, 10/2)



収穫した額 64kg(10/2)



わら選り(10/2)



山本孝義さんの指導のもとしめ縄づくり(12/2)



しめ縄完成品(12/2)

里山の清掃活動、植栽、花植え(3月～11月)

草むしり(3/11～)



池の藻取り



ゴーヤ植え



植樹(4月、5月)



里山拡張部に200本植樹

花壇作り(6月、11月)



14種類1185本の花を植樹

設計図を持つ
宮川忠彦副部会長



コマツの文字を浮き出させた設計

田んぼPJ活動(イベント部会と共同):12月～1月

門松作り(12/15)



もちづくり(12/17)



しめ縄取付け(12/26)



コマツ女子柔道部にしめ縄と鏡餅を贈る



田んぼPJ活動(イベント部会と共同):5月～9月

木枠まわし(5/20)



田植え(5/20)



うち打ち(6/11&20)



稲架づくり(9/11)



稲架木小屋づくり(9/16)



4. サポート部会 部会長：洲崎 利圭



活動内容と活動状況



設立当初36名
↓
2014年12/E 75名
(設立当初に比べ2.1倍)

活動内容

- ☆大型ダンプトラック930Eの試乗案内
- ☆ミニショベルの操作指導
- ☆紙芝居・人形劇(女性部)
- ☆安全確保と対策



OG手作りの人形を使って人形劇



☆8名のOGが活動
福田・魚住・湯中・佐伯・
谷口・戸田・福井・本庄
☆今年度(見込) : 7団体
(258名)

こまつの社 大イベント



8/2(土) わくわく夏祭り
来園者数 : 2,335名
昨年実績 : 939名
(1,396名UP ! 2.49倍)



10/12(日) わくわく秋祭り
来園者数 : 5,678名
昨年実績 : 3,645名
(2,033名UP ! 1.56倍)

南イタリア世界遺産

周遊8日間の旅

平成26年 11月6日(木)
 11月13日(木)

稚松地区 釜本隆司



1日目(11月6日)

いつもの様にタクシーの迎
 えで集合(スーツケースの運搬)。
 専用バスで関西空港へ。

一行28名(平均年齢・70歳
 最高齢・85歳)は14時15
 分イタリア航空便で一路ロー
 マへ。機内は意外と混んでいた。

「少し驚いたネ!」

① 関空でモノレールに乗車す
 ると、そこに座っていた若い中
 国人グループが席を譲ってくれ
 た。少し驚いたが素直に受けた。
 若作り指定。

② 機内表示盤での現地到着時
 刻予想は約2〜3分以内の変化。
 関空→ローマ間9850Km、
 向かい風の中の飛行でその正確
 さ(コンピュータコントロール)に
 驚く。

13時間の飛行(日本時間の
 翌日3時15分)ローマ空港に
 着いた。小雨の歓迎。そんなに
 降らないと聞いていたのに。長
 い1日(+8時間)であった。

2日目(11月7日)

朝8時出発。市内に入る道は
 交通渋滞。それを避け外側環状

を廻ってナポリへの高速道路
 (1号線)に入る。

本日より経験豊かな現地の日本
 人ガイドが同行。観光地ではイ
 タリアンガイドの説明。

ガイドの話によると

・交通渋滞などローマの会社員は全
 然気にしない、もちろん遅れてもお
 咎めなしとの事。

・ローマの平均給与・13000〜1
 4000ユーロ(20万円弱)

・ガソリン・1.84ユーロ/L(2
 60円前後)輸入のため高いとの事

・高速道路・片側3〜4車線で、一
 番外側(4車線の場合は緊急車両用
 になっており一般車両は走れない。

最高速度は乗用車230Km。バ
 ス・トラック100Kmで常時スモ
 ールランプ点灯のきまり!

イタリアには約50か所(歴
 史地区含む)の世界遺産が登録
 されている。そのうち7か所(歴
 史地区)をこれから見学する。

(1A)すごいに尽きるカゼルタ
 王宮!

ナポリ王国がヨーロッパで偉大
 な権力をふるっていた。その富
 と権力の象徴であらう。現地ガ
 イドはベルサイユ宮殿(フラン
 ス)にもないものが多い事を強
 調。1200部屋、24の国庁

舎、通される部屋の大きさと
 神々しいばかりの装飾。女性陣

からため息が漏れていた。後方
 3Kmに亘る大庭園、一番奥遠
 くて見えない。大きな滝がある
 との事。そこに水を供給してい
 るのが次に観る水道橋。

(1B)大きな大きなカロリーノ
 水道橋

バスの中より見学。高い位置(約
 56M)に水道橋が架かっている。
 橋の長さ529M、水源か
 らの距離約33Km。

1700年代にこんな工事がこ
 んな技術がとただ驚くばかり。

西側のローマより山を横断し
 て東側に向かう。丘陵地には、
 所々風力発電所が。また一方で
 は太陽光発電パネル(屋根・大
 規模)もある。途中から小雨、
 夜中には雷鳴も。(日本と同じ
 だ!)

3日目(11月8日)

出発時には晴れていたが、雲
 行きがあやしい。
 土地は石ころが多く深く耕せな
 い。出てきた石ころは積み上げ
 て垣根に。やせた土地に育つオ
 リーブの木が多い。

(2) アルベロベッロの人々の知恵

アルベロ・樹、ベッロ・美しい
円錐の屋根は平石を置いて接着剤を使わず組み上げていく。昔はもつと貧弱で積木と一緒に一枚外すと全体がさっと崩れて小石の山になる。人が住んでいないと見なされ、課税されなかったとの事。石ころだらけの痩せ地に住む人々の工夫が今は観光地に！ 現在、強固なものになり夏場はレンタルで貸し出している。1週間単位で住めるとのこと。間取りは、応接間・リビング・寝室・トイレ／シャワと4部屋もあり2人程度なら充分エンジョイ出来る。屋根のシンボルとして家の守護神を飾っている。



カロリーノ水道橋



アルベロベッロ

次の目的地に向かって走っている時、アッピア街道を走った。この道は紀元前に造られたものを道幅2倍にして何とか交叉できるようになっている。(それでも狭い) 「全ての道はローマに通じる、この道进行することは大変な経験なんです」と興奮気味に日本人ガイドが語っていた。



アルベロベッロ

(3) 洞窟住居のマテラ

その昔イタリアの恥と言われたマテラの街に着く。その昔は斜面に穴を掘り(石灰岩)そこに牛などの動物と一緒に生活。それが貧民の生活に見え、衛生上も良くなかった(日本でも家畜と一緒に生活していたが、ここでは家畜は穴の低いところに生活。その匂いと不潔さが人々の健康を害していた)。

1950年代までに強制的にアパートに移住させられ、今はその名残を保存。4000個の中の一つを見学。とにかく暗くてジメジメしている。

18時30分 ナポリのホテル着 終着駅の裏にある昔からのホテルで、ダウンタウンに近い。治安も悪いので夜はくれぐれも一人歩きは慎んでほしいとガイドが強く忠告。

4日目(11月9日)

(4) 世界一美しいアマルフィ

海岸

世界一美しいといわれている断崖海岸のドライブ。崖崩れがあり、一部通行止め。細い道を40人乗り小型バスに乗り換えてつづら折の道を登って行く。峠

は生憎ガスの中で何も見えない。でもすぐに晴れ、峠を下る。海岸は眼下に広がって見える。岸壁にホテルが食い込むように林立している。夏場(5月〜10月)は活気に満ちているが今は静かである。有名人の別荘も多いとの事。海岸線は44Kmにも亘っている。それに沿って道は山の中腹を曲がりくねって作られている。ある海岸では、第二次大戦時、米国軍が上陸し反撃のきっかけをつくったとのこと。

天気が良いと紺碧の海との対比が素晴らしい絵になると思うのに！少しがっかり顔の一行。

(5) ナポリに戻り、市内観光(ナポリ歴史地区)。地下鉄工事中に遺跡にぶつかり20年近く建設は進んでいない。完成の暁にはその遺跡が地下のどこかに展示されるとの事。いつの事だろう？(小松駅でも同様のことがあったネ！)

5日目(11月10日)

今日は最大のイベント「カプリ島」・「青の洞窟」見学！嬉しいことに、晴れて、波も穏やか。双胴船(380人乗り)で、ナポリ港よりカプリ島へ(約1時間)。

石灰岩が多く昔は対岸のソルレントと陸続きであった。今は浸食により絶壁の佇まい。周囲17Kmで淡路島よりずっと小さい。

・天候とタイミングに恵まれた青の洞窟入り！

青の洞窟に行くためには小船（5人乗り）に乗り換える必要がある。カプリ港より中型船に乗り換え洞窟の近くで揺れる小船に。その段取りは現地のガイドの力量が遺憾なく発揮される。

結果、我グループはいの一番で小船に乗り換え洞窟内に。洞窟入口は低く小さく仰向けに寝て入らねばならない。入るタイミングがあり船頭が水面の一番低い状態の時に綱を引っ張り、入口をさつとくぐりぬける。みごとな手綱さばきである。内部は20〜40Mの広さで6M程度の高さ。中から入口方向を見るとそれこそ“紺碧の青”。（表現できない美しさと恐怖の体験）ここは有名な皇帝がプールとして使っていたところ。2、3分の内部見学。次から次と小船が入ってくる。1人1ユーロのチップ（天候と現地ガイドマウロさんに感謝）

近くに上陸後、ミニバスで移動。別荘、小さなホテルが多い。昼食は“タラのマリネ”と“生野菜”。日本人に合う量と味で好評この上なし。
ナポリに戻り



カプリ港より 中型船と小型船に乗換え

（6）古代ローマのロマン ポンペイ遺跡

この遺跡は昼時に一瞬にして火山灰で埋もれ、それが復元されている。他の遺跡と異なる。輪立ちの跡、ミイラ、朱塗りの絵、居酒屋などそのまま掘り出されている。約2000年も前に2万人もの人が住んでいた。巨大な浴場、サウナもあった。サウナの水滴が直接身体に落ちない工夫。この時代の人々の知

能の高さに感激！ 興味ある人は1日ゆっくり廻りたい気分だろう。



ポンペイ遺跡

6日目（11月11日）

（7）終日ローマ市内の見学 （ローマ歴史地区）と買い物。

ローマ市内は坂の多い町で、許可を受けた車のみ市内を走れる。（所どころに検知装置あり、違反者には通知が来る。）従い、郊外からはバイク通勤が多い。

（7A）バチカン市国にあるカトリックの総本山サンピエトロ寺院 時刻が早く、並ばずに内部を見学（イヤホン付）その壮大さは月並みな言葉では言えない。

（7B）コロッセオ、入場しなかったが、人種のるつぼ



バチカン

（7C）トレビの泉、修理中

願いを込めてコインを投げ込んだが、コイン1枚、2枚、3枚で願い事が異なるとの事。もう一度来る？

（7D）スペイン広場

階段が有名。夕食はサヨナラパーティを兼ねてピザ。イタリヤ人によるカンツォーネ（その昔聞いた懐かしい歌）声量に感嘆しながらの食事は最高！メンバーのエキストラ入りで合唱（日本語あり）、口真似とその立ち居振る舞いは道化師さながら。笑いとドキドキの風景で、やつぱりイタリヤだなと感じ入った。

7日目(11月12日)、

8日目(11月13日)

朝から雨模様、遅い朝食をとり、ゆったりと過ごし、午後3時25分機上の人となる。流れるように日本へ。関空の近く、瀬戸内海の海の色はカプリの海の色に遜色ないように見えた。雨の夕暮れ、専用車で無事帰宅。添乗員、皆様、有難うございました。お疲れさまでした！

「雑感」

- ・期待していたイタリア人の陽気さが見えなかった。今回は人口の最多のローマ、3番目のナポリを観光した。(国力が落ちていることが底辺に在るとガイドの話)
- ・教会内部はどこもカメラOKで気楽。ミサまで参観。
- ・南イタリアの食事は賛否両論。女性には概ね好評、男性は酒が入ると評価ダウン。我々の年代はポリウム少なくても、うまいものを食べたい。
- ・高齢の夫妻の元気で活発な動きと食事量、前向きな生き方に学ぶ事が多かった。(有り難う！)



- ・総じて、ゆったりとしたスケジュールで心身とも余裕が持てた。
- ・折り紙名人は時間さえあれば折り、折り紙を通じてメンバーのみならず、イタリア人とも国際交流を広めていたのも印象的だった。
- ・集合写真でOB会の横断幕がなくさびしいネ。

海外現地生産の

こと(その4)

国府地区 西尾皓史



これまで、第33号、第34号、第35号の会誌で掲載させて頂いた通り、1983年12月に「欧米現地生産プロジェクトチーム」が発足し、ヨーロッパと米国における現地生産のF.S.(フイジビリティ・スターダー)を開始して以来、現地生産の本格的な調査・準備が進められ、その後「米国現地生産準備室」が設置されて、米国テネシー州チャタヌーガにおける、工場建屋取得・改修、生産設備の計画・導入、現地従業員の採用と教育、日本からのコンポ輸入、部品の現地調達等々、米国現地生産の準備を完了し、1987年5月

に目出度くオープニングセレモニーを迎えることができました。ここに、「米国小松製造株式会社」(KAMC)は、本格的に生産をスタートすることになり、コマツグループの生産企業体として、現地社会に溶け込んだ形での組織体裁を整え、次第に生産台数を増やしつつ、生産管理面において、コマツQCDを徐々に定着させて行くことになりましたが、これらの経過については、第35号に述べた通りであります。

1. 全社リレーション

現地生産をうまく立ち上げ、生産企業体として企業経営を行っていくための最も重要な要素の一つは、現地社員のモラルを如何にアップさせられるか、であります。

コマツの出自者、応援者と現地社員とのコミュニケーションを良くし、コマツの技術を教え理解してもらい、相互に協力し合いながら、一台づつ、ホイローダー、パワーショベル、ダンプトラック等を作り上げて喜びを分かち合う、と言う様に、コマツの社員と現地社員とが一

体となつて、生産活動に全力を投ずることが出来たのは、O社長の人間性とリーダーシップによるところが大変大きいと思うし、一方、生産活動以外でも、社員相互のコミュニケーション向上と一人一人のリフレッシュを狙いとした、全社リフレッシュをいろいろと企画し実行してきました。

その一つに“クリスマスパーティー”があります。チャタヌーガ市内の一流のホテルを貸し切りにして、従業員夫婦連れで参加するこのパーティーは、大変豪華で、会場のすばらしい飾り付けにマツチするように、参加者の衣装も大変華やかで、何とも表現し尽くせないような迫力のある雰囲気の中で催されます。出し物も、ショーもすばらしく、また、食事、飲物は種類、量とも豊富で、コマツからの出向者、応援者にとっては、異国の地での、文化の違うクリスマスパーティーに、驚きを感じながら、「何故、アメリカの大田舎町と言われる、このチャタヌーガで、こんな華やかなパーティーができるのか」と首をかしげつつ、単身赴任の悲哀を味わいながら、

黙々と飲み、食べ、酒と雰囲気
に酔いしれたものでした。また、チャタヌーガ市を悠々と流れるテネシー川の“川上り、川下り”を楽しむ“ボートツアー”も、楽しいイベントの一つであります。

従業員の家族も当然参加するので、勿論、小学生、中学生はお父さんお母さんと手をつないで、るんるん気分で作って来るし、未だ乳飲み子を連れて参加する若い夫婦もいる。また、おじいちゃん、おばあちゃんも息子や娘の招待で参加し、大いに若さと元気をアピールしている。

船はゆっくりとテネシー川を上って行くにつれて、雄大なアメリカ大陸を象徴するが如き、スケールの大きい山と平原、田舎風の大きな農家の家並など、いろいろと印象深く、感動的な風景が、次々と眼前を通り過ぎ、飽くことがありません。こんなすばらしい景色を眺めながら、ソーセージやフライドポテトをつまみに、テネシーウイスキーのジャックダニエルをチビリチビリ飲むのは、なんとも贅沢な感じがして、日本で頑張っている

同僚や後輩たちにも味あわせてやりたいと言う気持ちになったものでした。

2. 出向者、応援者のリフレッシュ

日本人出向者、応援者にとって、仕事の緊張感から抜け出して、リフレッシュできるのは、“ゴルフ”と“みんな集まっ

ての夕食会”である。中でもゴルフは、チャタヌーガ周辺にゴルフ場が多く、土、日でも大体希望通り予約が取れるし、一番有難いのはラウンドフィーが大変安いことでもあります。

1ラウンド、2人乗りカート付(4人で2台)・15〜18ドルでプレーできるので、土、日は勿論のこと、日の長い夏期は業後から1ラウンド回ると言う具合で、ゴルフ天国で充分ゴルフをエンジョイすることが出来ました。

そして、その内に、現地従業員から、「是非一緒にゴルフをやりたい。」という声が上がることになり、社長杯争奪の全社コンペに発展して行った。生産現場でやりとりするカタコト英語は

大体通じるが、ゴルフ場でのプレー中の一言、誉めたり、皮肉ったり、足を引っ張るような英語が理解できず、「何を言ってるか理解できないし、何を言ってる良いのかも分からない。」とぼやく者も多かったが、その内に慣れてくればしめたもので、冗談を言い合い、相手を皮肉ったりして、ずいぶん親しさを増していった様でした。

“みんな集まっつての夕食会”については、いろいろと面白い秘話もあるので、来年の、会誌37号に掲載したいと思います。

3. チャタヌーガへの来訪者

コマツのN社長が交代されたのは、KAMCのオープニングセレモニーの直後であったが、その後、間もなくコマツのT新社長がチャタヌーガへ来られた。T社長は、たった一人で、アトランタからチャタヌーガへ入って来られ、O社長と私が空港までお出迎えさせていたいただきましたが、我々への手土産にと、日本酒を持ってきていただいたことに大変感激しました。

夜は、“KANPAI OF TOKYO”と言うステークハ

ウスで、T社長を囲んで日本人
出向者が懇談しましたが、チャ
タヌーガ市ではタクシー、ハイ
ヤー、リムジン等の便が悪く、
当日は、西尾が車を運転してT
社長を送り迎えました。

KAMCは始めての米国現地
生産工場だった為でしょうか、
本当に多くの方々が工場の視察
に来られました。

コマツの方だけではなく、関
係会社の方々、みどり会の方々、
販売店、代理店からも沢山の方
をお迎えすることが出来ました。
また、コマツの役員各位が来訪
されるたびに、空港までお出迎
えした事を良く覚えております
し、特に、Y取締役をお出迎え
した時は、突然「俺に運転させ
てくれ。国際免許を持つて来た
から大丈夫だ。」と言われ、ハラ
ハラしながら助手席で足を突っ
張っていたのも、懐かしく思い
出されます。

空港への出迎えは、多い時は
週に3回、日に2回ということ
もあり、今でも目を瞑ると、空
港までの道路の道順が頭に浮か
びます。

このように、空港へ何度も通
っている内に意外なことに気が

ついた。それは、ポーターが荷
物を運ぶ事によって客からもら
う1ドル札が、空港ビルの入り
口のデスクの上に、無造作に束
ねて置いてある。

その上に“石の重し”を乗せ
て、風で飛ばされるのを防いで
いるが、誰かに盗られるような
心配を全くしていない。ポータ
ーは忙しく走り回っていて、1
ドル札の置いてあるデスクを離
れることが多いのに、よほど安
全と言われる日本でさえこんな
ことは珍しいのではないだろう
かと思ひ、総務部長のJ.S.
に話を聞いてみた。

彼が言うには、「チャタヌーガ
は本当に安全な町です。何故な
ら、流れ者がほとんどおらず、
何代も前からチャタヌーガに住
みついてる人ばかりだから、
悪いことをするとこの地に住む
ことが出来なくなるからだ。」と。

コマツからの駐在員、および、
長期出張応援者の、現地での生
活、食事、言語等の問題、でい
ろいろトラブルも発生したし、
嬉しいこともあった、これらに
ついては、会誌37号に掲載させ
て頂きたいと思ひます。

モノづくり体感

スタジオム出展

犬丸地区 今西和夫



8月29日(金)、30日(土)

にモノづくり体感スタジオムに
参加してきました。これはモノ
づくり日本会議(日刊工業新聞
社内)が主催する子供たち向け
のイベントで、今年で5回目と
なります。コマツは一昨年、昨
年と2回にわたり「ブルドーザ
は力持ち」というテーマで参加
し、ブルドーザが大きな力を出
せる秘密を子供たちに実験を通
じて理解してもらい、あわせて
世界のコマツについても知って
もらう理科教室でした。今年は
コマツのいくつかある柱のうち
の1つである鑄造をテーマにし

て「こども鑄物(いもの)教室」
を行いました。

会場はこれまでの慶応大学日
吉キャンパスと違って東京都渋
谷区にあります青山学院大学の
青山キャンパス17号館で行わ
れました。これに出展していた企
業や団体は、オークマ(株)、芝浦
工業大学、日本航空電子工業(株)、
キャノン(株)、全日本製造業コマ
大戦、モノづくり日本会議、コ
マツ、東レグループの8社でし
た。コマツからはわくわくコマ
ツ館、コマツOBスクスク会、
さらにコマツ本社コーポレート
コミュニケーション部から総勢
22名で参加しました。

教室はスライドによるコマツ
館の紹介、鑄物の歴史や工程、
身近にある鑄物、建設機械に使
われているところなどを説明し
た後に、かつてコマツで作って
いた鑄物による大型の船舶のイ
カリのクサリ(錨鎖「びようさ」
と読む)の模型の製作実演を行
いました。

さらに、子供たち一人一人による鑄物づくりを行いました。これには危険を伴う作業はスタッフのOBが行いましたが、可能な限り子供たちが自分で選んだ模型で砂型を作り、出来た鑄物の砂落とし、ヤスリがけなどを行いました。これにはコマツOBスタッフによる指導と父兄の応援のもとに真剣に頑張っておりました。普段経験することのない鑄物作りに大喜びでした。



最後に錨鎖を砂型の中から取り出す実演では、クサリが見事につながっているのを見て会場全体から大きな拍手がわき起こりました。



また、会場には展示コーナーを設けて、子供たちや父兄が鑄物の実物を手に取ったり、重さを実感してもらったりしました。またコマツのOBの一人である横浜在住の竹本氏に帆船の模型を展示していただき、実演した船舶のイカリが使われているところを理解してもらうのに役立てました。



子供たちにアンケートに答えてもらいました。その結果、全回答が「ワークショップが楽しかった」、「今後またコマツのワークショップがあれば参加したい」との評価を頂きました。OBスタッフの優しい指導でうま

く鑄物づくりが出来たことが書かれています。



極上ジジイ

矢田野地区 松田靖雄



「幸せな年寄りになりたきやカミサンをかまってやれよ。」金にも出世にも無縁でも、極上の生き方ができる秘訣を教えてやるよ。

チョット難しい話になるけど、五十代以下の人はある意味、気の毒だよ。

戦争も知らないし、貧しさも知らないし、人が助け合うことの有難みを知らないだろう。

東日本大震災のせいで“絆”っていう言葉が話題になったけど、話題になるってことが、そもそも日本人がそれを忘れかけてきたってことじゃない？

我々の育った時代は、みんな

もつと他人をかまったら、他人を頼ったものだ。道を歩いていりゃ、「おい、どこへ行くんだい。」って声が掛かる。「うるせえ、余計なお世話だ。」って思う人はいなかった。

味噌や醤油は隣の家から借りたし、イモの天ぷらを揚げれば、近所に分けたもんだ。ところが、味噌や醤油もコンビニに行けば夜中だって手に入るほど豊かな社会になって、そういう人間関係を煩わしく感じるようになった。

それが行き過ぎて、みんな孤独になって、こんなに自殺者が増えたと思われる。だけど、かまうってのは難しいことになった。余計なお世話って言われる。

かまうには知恵も年季もいる。厄介な世の中になったもんだよ。気遣いしたって相手に通じなくなっている。

だけど、絶対に解説してはいけない。“陰徳”といって、陰ながら、しかも自分のできる範囲で何かしてやる。カミサンにも子どもにも近所のバアサンにも、そういう気持ちが大それたと思う。決して「それは私がやりました。貴方のためを思って。」とか言っ

てはいけない。

それから報いを求めるのもいけない。今は、見返りを求める人が多いように思われる。他人がやったことでも自分の手柄にするひどい人もいる。

人づきあいが難しい世の中だけど、手取り早くできる方法は笑うことです。

笑顔を向けられて嫌な気持ちになる人はいないと思う。

「笑顔は世界のパスポート」「笑顔に勝る化粧なし」笑顔は誰にも出来るし、タダだもんな。

特に、年寄りの笑顔はいいもんだ。笑顔の素敵なジイサン、バアサンはいい老後を送っている。

そういう幸せな年寄りになるには、カミサンとの関係が大事だけど、一朝一夕には出来ない。積み重ねが必要だと思う。

「カミサンは自分が養っている。」なんて感覚は絶対ダメ。奥さんを従属物のように思っている人も多いようだ。そんなことではなく、逆に、奥さんあっての自分、カミサンには素直に自分の感謝の気持ちを出すことだね。

自分は「泣いて生まれて、笑って死のう。」と生きている。

赤ん坊は泣いて生まれてくる。それをみんなが笑顔で迎える。逆に、一生が終わる時は、本人が微笑んで、周りが泣いてくれる。

それが、極上の人生じゃないかしら。

お互いに助け合って、ニコニコ暮らすのが一番。幸せな年寄りになりたかったら、カミサンをかまってやれよ。



こまつの杜へ

参加して

符津地区 宮越 信夫



こまつの杜は平成二十三年五月に開設されてより早くも三年有余が過ぎました、この間、わくわくコマツ館や二百九十七トン積みダンプロックなどの珍しさもあってか来場者が一年後には5万人を達成したと報じられました。

又、里山ゾーン・小川ゾーン・広場ゾーン・エントランスゾーン・わくわくコマツ館と桜並木ゾーンの合計一万九千㎡有るこまつの杜の大きさは平成二十六年三月には約二倍に大きく成り、最初に植樹された里山ゾーンの木々も大きくなりだんだんこまつの杜らしくなってきました。さらにコマツOB会員として嬉

しいニュースは拡張された一角にビクターズセンターが建てられOB会の溜り場として活用出来る事ではないでしょうか。こうした中、館長始めスタッフの素晴らしい企画やこれを支えるボランティアの努力により社長表彰を受けた事は私達参加者の一員として記憶に新しい所です。

ここで私が所属する里山イベント部会と、里山ボランティア部会について、参加してよかったと思う事を紹介し、新しい方の参加決断の一助になれば良いと思います。

里山イベント部会はOB会報三五号で紹介されて居ましたが①カブトムシの住む森造りチーム（カブトムシの館及び堆肥箱でカブトムシやクワガタ虫を育てて居る）

②キノコの山造りチーム（シイタケやナメコを育てて居る）

③水辺の環境改善チーム（カキツバタ・キシヨウブ・アサザ・コホネ等の植物や、メダカ・エビ・カラス貝・タニシ・鯉等の水中動物の他、将来はホタルの誕生な

ど）

④休耕田の活用チーム（ひまわり・サツマイモ造りの他、無農薬・天然肥料に依るコマ作り）

⑤昔の遊びチーム（紙飛行機・オリヅル等の折紙・竹トンボその他昔遊びの普及指導）等の様に誰でもが昔を思い出して気楽に参加できる上に、子供たちを寄せたイベントには孫たちと小松の杜の様に昔仲間と交流を兼ねた場所だからでは無いでしょうか。

グリーン部会は、里山の草むしりや落ち葉と木片の処理・花壇の水やりなどの単純作業ですが、共同作業の為世間話も交えながら気楽に参加でき、作業日についても自分の都合によって変更可能な事はOBならではの特権？と思えば、ボランティアも気楽に参加が可能です。

こまつの杜以外の参加では、木場潟キャンドルナイトウォークキングへのボランティアも、夕方の一時をひと足先に準備しローソクに火を灯せば、後は交代で灯りの見張りをし、余裕が有

れば木場潟全周を照らすローソクの灯りを眺めながら一周すれば心の癒しと運動が出来、まさしく一石二鳥の楽しみでした。年に一度とは云へ、来年もぜひ参加したい行事の一つです。

もう一つは、今年初めての「人權啓発フェスティバル石川」への参加です。八月二十四日サイエンスヒルズこまつに於いて行われた催しの賛助参加で、此処ではこまつの杜より「折り紙教室の出前講座」として来場者に風船や買物籠、ジェット機やへそ飛行機などの折紙を教えながら一緒に楽しみました。

驚いたのは、身体障がい者の方が片手で綺麗に折紙を丁寧に制作し、付添いの人に負けない立派な出来栄えだったのには感心させられました。

この様に余暇を利用してのボランティア参加は体もあまり無理せず、時にはOBの交流になったり孫達と楽しく過ごしたりと、頭のリフレッシュと体の調整には最適だと思いますので新規の方も是非参加される様にお勧めします。

平成二十六年八月二十七日

栗津工場山岳部

五十周年に寄せて

芦城地区 園部莊一郎

(二代目部長…昭和四十年入部)



山岳部が五十周年を迎えたという事は、実に素晴らしく、その歴史の中に自分がある事の嬉しさは格別の想いが有ります。これも諸先輩や山仲間、その他関係者の皆様のお陰だと思えます。

思い起こせば、工科大学一年後輩の矢田さんからの誘いで、私の山は始まりました。

当時は大学山岳部全盛時代で、栗津工場山岳部も前田部長はじめ、先輩後輩の間柄も厳しく、毎日業後に工場の体育館に集まり、片山津ゴルフ場までのトレーニングが日課でした。併せて定時制の高校へも通っていました。

で、ここでも山の仲間が集まり山岳部を結成しましたが、栗津工場と違いどちらかといえばレクリエーションの枠を超えない青春の集いの様な部活動でしたが、女性もいて結構楽しい山登りをしていました。

勿論栗津工場山岳部にも女性が多く、厳しいトレーニングの中にも華やかさがあり、工場の仕事も山岳部の先輩や同僚を通じて人脈が広がって行き、日々楽しい時を過ごしていた様に思えます。

しかし山登りでの実践は、それは厳しいものがありました。新人は大鍋やテント等重い物や大きい物が与えられて、ザックの詰め方一つにおいてもチェックされましたが、今思うと TENT泊をベースに、実践を通じて山登りの厳しさ、楽しさを教えて戴き、今日まで続ける事が出来、心より感謝申し上げます。

五十年近く山を続けて色々な想いが有り、活動は年間で四季毎に合宿がベースで、技術を磨いて来ました。少し述べてみましょう。

春は白山と北アルプス(涸沢・横尾がBC)が交互に計画

されグリセードを教わりましたが、白山御前峰から剣ヶ峰へ、奥穂高山頂直下から涸沢へのグリセードは怖くてビビリまくり、また快晴の白山では、雪盲になりご迷惑を掛けました。

夏の思い出は、槍ヶ岳集中登山で烏帽子の山小屋前でテント泊に、大雨で寝袋ごと浮いてしまい小屋へ駆け込んだ事。白山弥陀ヶ原で夜中に登り、雷に逢い、這って何とか室堂へ。

秋の失敗は、白山へ向かう妙法山で米を飯盒で炊く時に、水と灯油を間違ひ叱られた事。

冬の五竜では、アイゼンワーク中にダンゴになり滑落、岩と岩の間にキスリングが引っ掛かり大事に至らなかった事。唐松岳山荘で靴を抱いて凍らないように寝た事。雪洞作り、ミカンの皮は捨てるな、等々色んな思い出が有りますが一つ一つ新鮮でした。

他には北アルプスUの字山行 全山縦走から始まり、文化体育会と労組の夏山文体登山・剣岳・八ツ峰の岩登りトレ・家族を含めてのクリスマス忘年会・山の文化祭・番外山行・全日本登山体育大会知床参加・山の機

関紙や山の歌集の発行・男の料理教室・キナバル海外登山等、振り返ると本当に楽しいイベントも交えて充実した活動だった。これからも歴史と伝統のある栗津工場山岳部が優秀な後輩に受け継がれ、更なる活動を期待すると共に、ますますご発展されますよう心よりお祈り致します。

最後になりますが、機会があれば酒を飲み交わし、肩を組んで山の歌を歌い、アルペングリューエンに染まりながら、更なる未知の尾根を目指して思いを語ろうではありませんか！

50 周年記念誌



コマツ栗津工場山岳部

戦死した父の慰霊祭で

涙あふれ

美川・川北地区

平野 松雄



一昨年八月、日本遺族会主催の「ビスマーク諸島戦没者遺児の慰霊友好親善事業」の参加募集の記事を「日本遺族通信」で拝見。これまでいつか、父の戦死したところを是非とも行ってみたいと思っていたので、早速「石川遺族連合会」を通じ、参加申込みをしました。

父親の戦死したところがどんなところなのか一度現地に行つて、ご冥福を祈り追悼したいと思っていました。

昨年二月一日に、靖国会館に全国から集まった同志十九名と共に結団式。そのあと、靖国神

社に参拝。夕方成田空港に移動。二月二日南緯九度（オーストラリア北部の上で、日中の気温三十六度位）の首都、ポートモレスビー空港に到着しました。

パプアに入国してまず驚いたのは、殆どの人が裸足（はだし）でいたことでした。世界は広いと言われますが、二十一世紀の現代に、男も女も裸足で生活しているとは、文化と環境の違いにビックリ、驚かざるを得ませんでした。パプアへの入国手続きを済ませ、全国から参加した十九名全員の父親が戦死した場所に順次移動。個人ごとの慰霊祭を行いました。私の父は、軍歌ラバウル小唄でも知られているラバウル市の、山奥へ約四十キロ程入ったシナップと言う村でした。この場所で戦死したと言うことは、厚生労働省の戦死者管轄の方が調査して分かったそうです。

現地に到着して、高台の平なところで個人慰霊祭を行う場所を探していたら、現地の村長さんみたいな人が「あなた達のために慰霊祭の準備をしたので、この場所で慰霊祭をして下さい」と言ってくれました。初め

て会う我々に慰霊祭の準備として、四本柱で囲いを作り、天井には雨が降っても大丈夫なようにシートを掛け、さらに「ヤシの葉や花で飾りをつけて、祭壇には果物や供え物までが準備されていました。」個人慰霊祭にここまで気を使つて頂いたかと思うと、もう、それだけで胸が一杯になってきました。戦争当時は、村が日本軍のために相当苦しめられ、辛い思いをしたはずなのに、こんなに心温まる歓迎ぶりには、我々はただ感激と感謝するしかありませんでした。

（写真参照）



引率の日本遺族会団長補佐の方の、父の軍隊での所属や、経歴を紹介した後、遺児本人の追悼文を読むことになりました。追悼文の主な内容は以下の通りです。

「お父さん、初めまして、次男の松雄です。今日は、亡くなった母の代理として、お父さんに面会にきました。これまで、お父さんの顔を知らずに七十年間過ごしてきました。それは私が生まれたのが、昭和十九年二月二十一日で、父がニューブリテン島のラバウル市シナップと言う村で戦死したのが、その五十六日後の四月十八日だったからです。」

それまで、父は三度出征し、二度までは無事に戻ってきたのですが、先の大戦で戦死してしまいました。当時、父は「船舶工兵第一連隊」に所属。軍曹として活躍していたと母から聞きました。戦地で父への追悼文を読むとき、ひとりで涙があふれ泣かずにはいられませんでした。その後、全員の焼香が始まり私は用意していた「真宗大谷派の「阿弥陀経」を唱え、最後に皆で「ふるさと」を合唱し

個人慰霊祭を終了。

父が戦死した事を伝える遺品だと「髪の毛三本」入った封筒が送られてきたと母から聞きました。我が家は農家で、当時祖母、母、兄弟四大家族で生活が一変。路頭に迷うような困窮を極めたことでした。

改めて、戦争の悲惨さと残酷さを思い知り、「二度と戦争のない平和な社会」を子子孫孫まで伝えることを願わずにはいられません。父の安らかなるご冥福を祈りました。

現地のブーゲンビル島ヌマヌマでは、「小学校に学用品」を、また、ラバウルでは「施設の少年に車椅子」を寄贈。両国の友好親善を深めながら、二月八日の夜中に成田空港に到着、帰国しました。

ところが、日本に着いて驚いたことに、東京は「四十七年ぶりの大雪で交通は麻痺」成田から東京のホテルに到着するのに四時間もかかり、これまた、パプアと言ひ、一生の思い出として心に残った「戦没者遺児による友好親善事業」となりました。



高齢者の生きがい

健康生活始めよう

東陵地区 川上 靖雄



21世紀は少子高齢化の時代と言われていきます。小松市では平成26年11月1日現在、65才以上の人は28604人、高齢化率26.3%、内、要支援を含めた要介護者は5062人で、全人口の3.8人に1人が高齢者、そして高齢者の5.7人に1人が要介護者です。要介護者は年々増加傾向にあり、平成14年、8人に1人でしたのでデータは平均寿命が伸びた割に健康寿命が伸びなく逆に下がっていることを示しており、背筋が寒くなります。

また、日本では自殺者が平成10年以後、14年連続して3万人を超えている状態が続いて

いましたが警察白書によれば平成24年27857人と、平成9年以来15年振りに3万人を割りましたが60才以上の自殺者は11048人と、11000人台で推移しており、自殺者に占める60才以上の割合が平成16年の34%、3人に1人から平成24年の40%、2.5人に1人と、年々増加しており、60才以上の自殺者がいかに多いかが分かります。昔は金がないと食べられなくて一家心中なんてことが日常茶飯事のように起きていましたが、今は物、金いゆる物質面では豊かになり、福祉が行き届き、経済大国として世界をリードしている日本で身体的に健康なのに精神的な原因での自殺が増えていきます。作家、五木寛之は心の内戦、つまりインナー・ウォーと言っています。私がやはり心の豊かさが欠乏しているため、戦後69年過ぎましたが、今までは金、物の豊かさばかり追求してきたために心の豊かさ、自然の豊かさを失ってしまったように思います。

以上から健康を考えた場合、身体的健康と精神的な心の健康

の二つあると思うのです。そして身体的健康は必要条件ですが絶対条件ではなく、心の豊さ、心の健康が絶対条件になるわけで、そのためには“おしん”のように終生現役で頑張っている人は別にして現役を引退した高齢者の生きがいについては心の健康がとても重要になります。

◆心の健康、三つのポイント

1) 趣味を持つこと(仕事以外の趣味で仕事に興味はN

G)

2) 異性の友達を持つこと

誤解しないで頂きたい、恋人とか愛人でなく茶飲み友達、夫または妻、いない人は例えばふれあいルーム、いきいきサロン等で一緒にあって茶を飲みながらわいわいがやがや話すのが良いです。

3) 報酬を目的としない仕事を持つこと(町内の世話など、いわゆるボランティア)

平均寿命が伸びたと言われても健康寿命が伸びなければ意味がありません。元気な高齢者になるためには以上の三つが非常

に重要なポイント、特にボランティアが重要、広辞苑によれば自主的に労力や技術を無料で提供する人、言いかえれば人を喜ばす、人に感謝される行為、人の喜びや感謝の気持ちを頂くことで自分の気持が豊かになり、心の健康に繋がり、生きがいになるのです。従って広義に解釈すれば人に感謝され、喜ばれる行為は全てボランティアと言えます。

◆身体で健康で言えば小松市が重点に掲げている三つのポイント

1) 毎日20分以上歩くことを日常生活に習慣つける。

2) 食事のメニューを1日30食品以上とする。

3) 鏡で自分の姿を1日1回以上見る習慣をつける。

本格的な高齢化社会を迎えて老人ホーム施設の充実も重要ですが21世紀は健康寿命を伸ばすため、元気なお年寄りになるための予防的健康施設の充実が重要であり、小松市にはその一つである三世帯交流ふれあいルームが七施設あります。

このルームは要介護者にならないため、元気なお年寄りになるための予防的福祉サービスの提供であって、機能回復、能力活用、三世帯交流の場として、また心身の健康ケアとして活用されています。世の中バリアフリー化が進み、福祉施設の充実で身障者や高齢者に優しい環境作りが徐々に整備されてきました。これらの施設を大いに活用して介護サービスを出来るだけ長く利用しないように、身体的にも精神的にも何時までも健康で若さを保ち、健康人間作りを心がけることが重要です。

今年、喜寿を迎えました。江戸時代の儒学者、貝原益軒が84歳の時に記した養生訓の中に「老後の1日は千金の値」となる生き方をすべしと説いています。年をとると若い時より月日の経つのが10倍も早く、1日たりとも楽しまずに、むなしく過ごすことは惜しむべく老後の一日は千金に値するよう有意義に過ごさなさいと言うことだと思います。

定年退職を機に始めた健康生活も16年目に入りましたがこの間、大病を患うこともなく健

康に生かしてもらったことに心から感謝、これからは健康を優先順位第一に心身の健康のための三つのポイントを確実に実行、趣味である春の山菜採り、春夏秋冬の釣り、秋のキノコ採り、冬のスキーと四季を通して自然に接する生き方、これこそが自分にとって正に千金に値する生き方、残り少なくなった人生、やりたいことを実行するため最大限努力し続ける所存です。

健康生活 バンザイ!



わが生い立ちの記― わたしの履歴書（4）

東稜地区 小枝敬一



I、出生から幼年時代（京都時代）

◆「父母のいと」

私は昭和11年5月30日に、京都市上京区今出川通り烏丸西入ル今出川町三二〇番地で、父小枝仁吉、母小枝豊子の長男として生まれた。父は30歳、母が21歳の時の子である。

平成26年の現在、78歳になるが、昨年は「喜寿」と、「金婚式」が重なり、6人の孫とその親たちにお祝をして貰った。振り返って、この年まで大病もせず、生きてこられたことは、神仏の加護と亡き両親をはじめ、有縁

の方々の援助の賜物と深く感謝している昨今である。父は存命中、姓名判断に凝っていた。貴男の長男は虚弱で長命を期待できないと、易者にいわれ、「敬一」から「祐和・ひろかず」に呼び名を変えられたことがあった。国民学校へ上がる前の5歳か6歳のころの記憶である。

◆八百物店「千鶴」の開店

父は明治39年11月25日、江沼郡の庄村（加賀市庄町）の生まれで、父吉次郎と母美津（後妻）との間に生まれた六男だった。生家は代々庄屋を務めるほどの家だったというが、先妻の異母兄弟・姉妹との複雑な家庭環境もあってか、5歳の頃、江沼郡月津村（小松市月津町）の矢田兵三松のところへ、養子縁組に出された。しかし7歳の頃事情があつて、協議離婚となり生家に戻ったという。尋常小学校を卒業して、奉公に出され、幼いころから苦勞をしたらしいが、仕立職人の修行なども経験していたというが、縁あつて京都市千本通りの「小島八百物店」に奉公することになった。苦勞の末、年季明けとなり、京都市烏丸今

出川に、八百物店「千鶴」を開店。一本立ちし母と見合い結婚した。

◆早逝した読書好きの父

父は私の8〜9歳の頃、すでに敗戦の色が濃い昭和19年春に「白紙徴用」を受け軍需工場で働いていたが、時々帰ってきては、家業（八百物店）をみていた。すべてが、統制経済であり、配給制度のもとに、八百物店は、生来の商いは困難な状況にあつた。いわゆる闇経済が横行、そんな才覚に欠ける父と、商売気のあつた母とは、いつも言い争っていたことを思い出す。昭和19年の7月頃、仕入に早朝わずかな商品を求めに、市場に行つた父は交通事故に逢い、胸部を激しく打撲「膿胸」という病を得、これがもとでその年の11月に苦しみながら京都府立医科大学病院で死去39歳だった。そして父の死を機に、私は生来のボンボンの性格が、少し変化してきたように、思えてならない。父に何をしてもらったという記憶は薄いが、疎鬱の激しかった母が家事を放擲したとき、味噌汁や煮物を作ってくれたが、ジ

ヤガイモの皮が残り、ニンジンなどの妙な切り方が何とも嫌で、なんと不器用な親父だろうと思つた記憶がある。

◆明るく真っすぐな性格の母

八百屋の旦那が本ばかり読んでいたのでは、商売がうまくゆくはずがない。父母の口喧嘩は、日常のものだった。通りの向側には、町内の苦勞人で顔役の、「重岡のおっさん」が、よく仲裁に入つて収めてくれたものである。

母の豊子は、大正4年8月24日、能美郡苗代村宇北浅井で、父田端甚太郎と母田端ひなとの間で、長女として生まれた。当時としては、大柄で性格も明るく、物怖じしない、はつきりと物事を話すタイプの明るい娘だったという。小さいころから、「じんたろうの豊子」は、目立った存在だったらしい。女学校に行きたかったらしいが、学校の先生が家に来て、進学を勧めたが、娘を上为学校に出す財力はなく、「高等科2年」で我慢させられたという。当時女は「尋常科6年」で充分という時代であつた。村でただ一人「高等女

学校」に進んだ従兄妹の松本りか子さんとは、終生ウマが合った腹心の友だった。

高等科を終えてからの母は、小松町の任田医院や寺井の鈴木眼科などで、看護婦の見習いをしており、娘時代は、仲の良いお友達もいて、楽しかったと後年語っていた。その母も平成16年10月16日に数えの90歳で波乱の生涯を閉じている。

◆今出川町界隈のこと

家の近くに京都御所、同志社大学、華族会館、ちよつと足を延ばせば、出町柳や吉田山の旧制第三高等学校や、京都帝大があった。家は八百物店であったが、同志社大学のラグビー部の寮の学生や、アーモスト館の宣教師関連の客も、開戦前までは店によく買い物に來たりしていた。又二階を学生の下宿に貸したこともあり、戦前の学生生活を知る母は、戦前戦中の話を後年よく話してくれたものだった。京都では広い電車通りの向かい側も同じ町内隣組だったように思う。空襲警報が鳴ると、同志社大学構内の防空壕に避難したものである。「千鶴」の室町寄り

の隣家は、お寺で「菅」という姓であり、御所側の隣家は西坂の電気店。電車の道の向側の真ん前は、平井のはんこ屋、その隣が重岡のおっさんの家、反対隣りが「山下食堂」、西坂さんの隣が料亭の「桧垣」その隣が、美粧クラブ、・・・といった調子で、70年近い前の記憶がすらすらと出てくるあたりは、実に楽しい。

◆終戦間際の縁故疎開

昭和16年4月5歳の時、室町に新しい託児所ができた。家からは既存の「小川幼稚園」よりも近く便利だということで、室町託児所（正式名は失念不詳）に入る。この年の12月大東亜戦争が始まる。昼寝のあと三時のおやつの時間、テーブルに塗られていたニスの匂いが、いまでも脳裏に残る。昭和18年4月室町国民学校へ、入学時の集合写真を見ると、校長先生は流行の国民服。担任は背広姿で髭を生やした加藤先生だった。一年生の担任が男先生とは、当時でも珍しかった。菅君という子と友達になり、よく遊びにいったり來たりした。戦争も末期となつて、

食糧事情も悪くなり、昭和19年の暮れに父が亡くなり、「千鶴」を店じまいせざるを得なくなつた。学童疎開で、友達が滋賀県や奈良県の山奥へ縁故疎開したことを覚えていた。大阪が焼け、神戸が焼け、次は京都だという噂が飛び交う中、母子家庭で、店の経営もできない状況の「八百屋の千鶴」はついに店をたたみ、二足三文で家財を処理、娘の身を案じた祖父甚太郎が、実家に疎開せよと母を説得。

母の実家は、石川県小松市北浅井である。昭和20年の7月、敗戦の1か月前のことだった。

Ⅱ、幼年・少年時代（疎開・終戦・転校）

◆疎開は母の故郷へ

終戦の年に、京都から小松市北浅井の母の実家に縁故疎開をした。

疎開というより父が前年の11月になくなり、家業の「八百物店」を続けなくなり閉店したのを機に、物資不足の都会で、苦勞している子持ちの未亡人を両親が引きとるとするのが、本当のところであつた。この時、母

は30歳。

昭和20年7月20日「福井大空襲」の翌日の北陸本線福井駅の構内は、昨夜の空襲の後も生々しく、燃え残り残骸が随所に見られ、白い煙が漂っていた。夕方の6時過ぎ頃だったろうか、小松駅に列車は着いた。迎えに來てくれた母の弟の昭叔父は、旧制の小松工業の生徒だった。駅から太郎丸神社の沖道から清六へ、そして「せどや」「ひょうだぶさ」「せろさ」などの屋号で呼ばれる北浅井の家々の前を経て「じんたろう」とよばれる祖父の家に着いた。祖母のひなさんが、「よう來た」と労ってくれる。「そうま」（祖母の実家）の山田のお婆さんが、盥に水を張り足を濯いでくれた。

その夜は、蚊帳を吊った納戸の部屋で、母子で泥のように眠つた。しかし母は多分寝むれなかつたのではないかと、この年になつてしきりに思うのである。

◆終戦を苗代国民学校で迎える

当時は、国民学校と呼ばれていた小学校は、北浅井の地内に

あり、旧苗代村の千木野、吉竹、大領、北浅井、南浅井、不動島から児童は通学してくる。部落の対抗意識は相当なものであった。翌日には三年生のクラスへ転入学の手続きを済ませ、即学校へ行った記憶がある。この時の同級生で級長をしていた吉竹の大田実君とは、後年小松製作所工科学校で、机を並べることになる。大田君は絵が上手で教室や廊下に彼の絵がよく貼ってあった。学校は、男の先生は皆な、兵隊にとられてか、教育勅語の奉読か何か儀式のときは、坊主頭で師範卒で初任の鉄縁丸メガネの若い「橋先生」だった。しかし肝心の担任の女先生の記憶がないのはどうしたことか。唯一体操の時間に「小枝君は教室に残って絵を描きなさい。」と告げられ、クレパスと画用紙をあてがわれて、「犬の絵」を描かされたことがある。視学官の視察等があり、転校生の小生の絵がないので、急に書かされたのだった。後年大田君曰く、あれはシェパードの「軍用犬」だったねと。福井の空襲からしばらくして富山の空襲があり、「じんたろう」の家から夕方焼夷弾の

雨で、空が朱に染まるのを見た。ほどなく終戦、大人たちの意気消沈の様子はこどもながらはつきりと覚えていいる。同じ北浅井の浅田武君とは、遠い親せき筋に当りよく遊んだ。ガキ大将の千木野の岡本君もいじめたりはせず学校は楽しかった。女の子では、吉岡郁という横浜からの疎開組で、勉強のできる女の子がいた。色白の黒い大きな瞳、中原淳一描くところの美少女だった。父親は三井か住友の商社重役らしいという噂。母親は白いパラソルを差して「授業参観」に・・・みんな密かに心をときめかしていたのに、口を利かないまま、終戦の秋に横浜へ帰ってしまった。

◆東町から芦城小学校へ

「じんたろう」の家は、祖父祖母、伯父夫妻の娘、叔父・叔母、それに私たち母子の大家族で、折り合いの良くない祖父と伯父との諍いなどで、人間関係につかれた母は鬱症状気味となり、祖父が伝手を頼って奔走した結果、私たち母子は、終戦の翌年に小松市東町の土肥様宅に間借りすることになった。その結果、

芦城小学校に転校となった。昭和21年の2月だったと思う。当時小松市内の小学校は、男女別学で、芦城小は男子のみ、稚松小は女子のみの学校だった。それが昭和22年4月から、男女共学となり、稚松校から大勢の女子が芦城校へやってきた。苗代校に比べると芦城校はマンモスの学童が在学している。顔と名前を覚えるのも大変である。前述の橋先生が、いつの間にか芦城校の「理科の先生」になっておられ、小学校5年・6年との2年間クラスと関係なく、自由研究の形で、各クラスの理科が趣味という子供が集まって、橋先生の指導で、理科準備室を根城にして、「鉱物の標本」などの整理を口実にして、楽しく遊んだことは今でも目に浮かぶのである。徳田君、今井君、分校君、沖谷さん、山さん、徳田さん等とお喋りをしたり、仲間うちの家で遊んだり、家は貧しかったが、ハンデいをあまり感じていなかった。今にして思えば、母が必死で働き、母子家庭で、民生委員の世話になっていたようだが、人の情けは身に染みていた。

◆西町に転居芦城中学校へ

東町での生活は短かったが、上品な土肥の奥さんや長男の土肥正樹さんや都ちゃん梢ちゃんとの同居は、懐かしい思い出が多い。シベリヤからご主人が帰還してこられ、家業の塗師の仕事を開き再興されるということで、またまた転居を余儀なくされるのである。今度は西町の山田米穀店の貸家で、前の方の母屋は、これも母子家庭の丸谷親子が借りており、細い通路を伝って、奥にある「離れ」が我々母子の住いとなる。台所は「した流し」、便所は「共同使用」、現在からみれば、不便の上もない状況だったが、ぜいたくを言える境遇になかったのである。戦後も3年目、サマータイムが実施され、隣の川岸薬局のラジオで、古橋広之進の水泳1500米自由形世界新記録達成を聞き喜ぶ。昭和24年4月に新制の芦城中学校へ入学する。上級学校へ進める状況でないことが、明白になっていたが、けなげにもしっかりと勉強して、自立し母や弟の面倒をみようと思っていたことは事実である。

3年生なり、高校受験のことで友達が話しているのを横目に、夏休みも冬休みもアルバイトに精を出し家計を助けた。担任の井村先生には、よく目をかけて頂き、お宅にもよく遊びに行った。その中で働きながら勉強のできる企業内学校の存在を教えただけ、挑戦しようとい念発起した。日本国有鉄道、日本電電公社、民間の小松製作所の三学校があったが、一番可能性のある小松製作所工科学校の試験を受けた。そして昭和27年3月校内放送KRCで、「3B小枝君の小松製作所への就職が決まりました。」と放送された。

(以下次号)



脳腫瘍騒動記

東陵地区 山 勝三



「脳腫瘍です。即座に開頭手術しないと、明日の命を保証出来ません。」

事務的に、さりげなく、診断結果を告げる医師の言葉に、思わず息を呑んだ。

十数年前、あの世界中を震撼させた同時多発テロが、米国で発生した同じ日、小松市民病院で脳腫瘍の開頭手術を受けた。病室から、ストレッチャーに乗せられ、手術室の関門を通過したのが午前九時前。入口の敷居を通過する際、「ゴトン」という音を聞いたのを最後に、スーッと意識が消えた。

手術は、困難を極めるものだったらしい。腫瘍が頭部の奥深

く、脳の司令塔にあたる脳幹部にあり、メスの入れようが無かったからだ。検討の結果、頸からタテに後頭部を開き、縦横に走る神経の網目から、針ほどの大きな電気メスを差し込んで、拡大鏡で覗き込みながら、患部を摘出することに決まった。技術と根気を要するものだった。

午前九時過ぎに開始された手術が、終了したのは何と午後十時過ぎ。手術に要した十三時間は、公式記録は無いが、同病院の新記録らしい。

人間が全身麻酔に耐えられる時間は、通常、十時間が限度で、それを過ぎると、蘇生出来る確率が、どんどん落ちて行くとか。私の場合も十時間経過後、このまま手術を続行すべきか検討されたが、麻酔医の許可が出てOKとなったらしい。

術後、覚醒したのが二十四時間後の翌日の午前九時頃。集中治療室の中だった。頭が割れるように痛く、無意識に身体を動かそうとしたが、頭部を中心に十数本のチューブやコードが全身にまとわり付いていて、身動きできなかった。

なぜか、室内のテレビがつけ

っ放しになっていた。ぼんやりした頭で何気なく画面を見てみると、大型の旅客機が、ニューヨークの国連ビルらしい高層ビルの上部に突入し、爆発炎上する場面を、何度も繰り返し映し出していた。最初は映画の予告画面だろうと何気なく考えていたが、それにしてはしつこ過ぎる。アナウンスを聴く内、全世界を揺るがす大事件が、手術中に起こっていたことを知った。

手術の四ヶ月ほど前、国際NPOの一員として、世界第二の高峰、K2（8611m）のベースキャンプ場近くにいた。中国、インド、パキスタン三国の、国境にほど近いカシミール地方で、山仲間たちと植林ボランティアをしていたのだ。そのヒマラヤから一ヶ月振りに帰国し、自宅に戻った辺りから、次第に体に変調が来たと始めた。

右の手足がしびれ出し、何でも無い所でつまずいたり、手で重い物を握めなくなってきた。最初のうちは、前年の日本一周自転車旅の際、福岡市内でトラックに接触し、骨折した肩骨（鎖骨）の後遺症位に思っていたが、

どうも様子が順常でない。あわてて骨折の時、入院、治療した病院に走り、後頭部から首、肩など、治療部周辺の精密検査を受けた。

ところが、即座に、整形外科の担当医から説明があり、脳腫瘍の疑いがあるので、脳外科のある病院で精密検査を受けるよう、CTスキャンのネガと紹介状を渡された。そこで小松市民病院の脳神経外科へ走った結果、いきなり冒頭の衝撃の宣告を受けた。

「脳のご真ん中（脳幹）に、うずら玉子大の腫瘍（がん）が出て来ている。」というのだ。

放置すると早晚、歩行障害、言語障害、いや命を落とすことになる。即、開頭して腫瘍を切除しなければならぬとのこと。危うく冥界行きの、超特急列車に乗るところだったのだ。

宣告を受けてから入院するまでの、わずかの間、予備知識を得ておこうと、よせばいいのに、何気なくインターネットで「脳腫瘍」を検索した。すると、様々な症状別の一覧表が、発生確率と生存率！付きで、詳細に出ていた。結果を簡潔に要約すると、

脳腫瘍には良性と悪性があり、両者の発生確率は、ほぼ半々で、後者の場合、たとえ手術が成功しても、5年生存率は10%以下とあった。この事実を知った時の、天地がひっくり返るような痛烈なショック。

通常、腫瘍（ガン細胞）が良性か悪性かは、細胞を取り出し、精密検査すれば分かるが、脳に出来たガンだけは、脳味噌を事前につまみ出して検査する訳にはいかず、私の場合、フタ（頭蓋骨）を開けてみないと分からない不明の状態で、手術に臨むことになった。

脳腫瘍宣告を受けてから入院し、さまざまな検査を受けながら、執刀の前日まで、終日「死」とは何か？と考えながら疲れ果て、眠りに落ちる悪夢のような日々の連続だった。赤々と夕日が病窓を染め、やがて西の空に落ちて行く時、これが見納めかと切なく思った。平生は興味のなかった、トルストイやドストエフスキーの「死」にまつわる短編を繰り返し読んだ。

しかし、人間はうまく出来ている。悩みに悩んだ結果、最後は、「この世はなるようにしかな

らない」という諦めの境地に達し、手術日の朝は、比較的冷静に迎えることができた。

意識が戻って、術前に言われた医師の言葉を秘かに反芻する。歩行障害が無いか手足を動かしてみよう。嚥下障害が無いか、唾を飲み込んでみる。いずれも特別異常は無さそう。腫瘍が悪性か否かは分からないが、どうやら手術は成功したようだ。ホッとすると急に涙があふれて来た。

しかし、大病の本当の辛さは手術直後から、身体が徐々に回復する過程にこそある。人が生来保持している生命維持の本能が、フル稼働し、体のあらゆる部分で、ガマンの出来ない痛み、に形を変え警鐘を乱打する。痛みだけではなく。ウツカリすると、脳の変調から不意に、呼吸という生命維持の営みを阻止されかかることもある。夜中に、急に呼吸困難を覚え、オカに揚げられた魚のように、口をパクパクさせ、必死にコールボタンを押した事が何度もあった。

ある日、目を醒ますと、見舞いに来ていた妻と娘が天井に張

り着いていた。灯りの点いた天井が壁側に見える。視界が九十度回転して見えるこの不思議な現象は、腫瘍を摘出したため頭蓋骨内に隙間ができ、脳ミソの一部が移動。ために平衡感覚が狂ったのが原因らしく、安定するまで目を開けるのが怖く、決心を必要とした。

幸いにも術後の経過は順調で、痛みは続くものの、身体は徐々に回復。病院にいても、その内することがなくなり、退院した。自宅に帰って歩行訓練など、リハビリを懸命に行った効果も出て、体力も戻り、一年後には、妻と共に東京在住の友人夫婦と四人で、全快記念と称して、ドイツ西南部のライン地方へ、二週間のサイクリング旅に出掛けるほどになった。

十数年前の同時多発テロ事件の起こった日、同時に私にも起こった生死を分ける大事件。生から死へと逝く者と、死から生へと蘇生する者、両者を分けた運命のこの日。その痕跡は今、私の頸部から後頭部に至る、長さ十五センチほどの傷跡として、かすかに残っているだけだ。

欧米と日本の

「自由と正義・不正義」

向本折地区 小枝俊弘



●一、はじめに 2010年以来、NHKテレビ番組で米国の政治哲学者サンデル教授の「ハーバード大・白熱教室」が話題になり何度か番組を見ていて、テーマや主旨に「正義」という言葉がやたら多いのに気がきました。例えば「殺人に正義、課税に正義、奴隷制に正義、愛国心と正義、正義と不正義」等々の話をしようとの主旨である。本誌35号の拙著「米国の自由・平等と日本の不自由・不平等」では自由・平等を述べたが、今回は自由や平等を行使する際の行為に「正義」があるのか、「不正義」なのかを自由と共に

本論のテーマにして欧米や日本の「正義」の観念や行動について近世・近代の欧米の憲法の歴史を通して考えてみよう。全般に亘って著者好みの古代ローマに触れながら先ずは 欧米史の流れを搔い摘んでオサライする。

●二、世界史における民主主義の歴史

●二の一、古代ローマから中世、そして近代ドイツへ 古代ローマはギリシア文化の影響を受けて、特に市民による直接民主制の影響を受けて王政―共和政―帝政と体制を変えて引継いで行きます。375年頃、ゲルマン民族の大移動に伴う西ローマ帝国(395から480年)は滅亡して、カール大帝のフランク王国(481年から)が成立し、以後三つに分割されて、後の仏国の西フランク王国、後の伊国のロートリゲンと後のドイツ・神聖ローマ帝国の東フランク王国(870年から)と引継がれ、その後のドイツ・神聖ローマ帝国(962年から1806年)の約844年間に続きます。その間の暗い中世の闇を破るかの様に十五世紀中葉の伊国に文芸

復興・ルネッサンスがフィレンツェ(ダンテ、レオナルド・ダ・ビンチ、ミケランジェロ、ラファエロ)で開花し、ローマ及びヴェネチアが影響を受けて後に、仏国(晩年のレオナルド・ダ・ビンチはフランソア一世に招かれ、伊国・メディチ家のカトリクス・ド・メディシスはアンリ2世の王妃に)や英国(シェクスピア)にも及ぼし宗教改革ではドイツのマルチン・ルター(1483から1546年)や仏国のカルヴァン(1509から64年)を筆頭に仏国、英国、北欧やがて北米に布教が伝播します。政治の世界では英国でマグナカルタ(1215年)、清教徒革命(1641から49年)や名誉革命(1688年)、米国の独立革命(1776年)引続きフランス革命(1789年)が起き、ナポレオン一世(在位1804から15年)の第一次帝政に至り、時は下ってドイツではフランクフルト国民会議(1848年)の憲法制定は頓挫してしまいます。ナポレオン三世(在位1852-70年)の支配を受けながら、ドイツに帝国(1871年)が成立し、

第一次世界大戦(1914年から18年)でドイツは降伏しヴェルサイユ講和条約で天文学的賠償を負わされます。ドイツ革命(1919年)によるワイマル憲法(ワイマルの国民劇場で)が制定されて、その憲法内容が民主主義体制にとって画期的なものになり国民主権、社会権が世界で初めて認められた。がしかし悪名高いユダヤ人大量虐殺のナチスの軍事独裁政権が全権委任法なるものでワイマル憲法を事実上、骨抜きにし日独伊が第二次世界大戦を引き起こし遂に1945年2月に伊国、五月にドイツ、八月に日本が降伏します。因みに中世ドイツは古代ローマ帝国に憧れて神聖ローマ帝国とローマ名を冠して皇帝をカイザーと言い、仏国のナポレオン一世は自らを古代ローマ皇帝になぞらえていました。

●二の二、ドイツ近代史の自由及び正義(独・フランクフルト及び仏・パリの国民議会について) 神聖ローマ帝国が約844年間続くなか、ドイツのフランクフルトのパウルス教会がフランクフルト国民議会のあった所と知って著者の従前の「国民議会」

と言えは次の認識であった。「国民議会」とは現在の日本で言えば衆議院、参議院等の議会の事であり、世界的な有名なものとして仏国の「国民議会」であり、即ちフランス革命（1789年バスチュール牢獄の襲撃）の

発端にもなった175年振りの三部会の招集であり、第一身分の国王、第二身分の貴族や僧侶そして庶民の代表である第三身分の議員が絶対多数を占めて、正確には第三身分の意見に賛成した第二身分の貴族のリーダーによる三部会の自由、平等、博愛の人権宣言が発せられた議会を、著者は既述の如く「国民議会」と理解していたが、その後フランス革命は幾多の紆余曲折を得てナポレオン一世の帝政に至り、やがてナポレオン一世が欧州の覇権を握り、放棄していくが、その間に欧州の各国では圧倒的に共和国制が支持されて、フランス革命の約六十年後の隣国のドイツの「国民議会」が1848から49年にフランクフルトのパウルス教会で召集され憲法制定を通じて自由主義的なドイツ統一を図る方式等を討議したが、ドイツ地域の有力国

王・プロイセンのフリードリヒ・ウィルヘルム四世等の支持は得られず頓挫するが以後のワイマール憲法（詳細は後述）、ボン基本法等に強く影響を与え歴史的に高く評価されている。

●三、フランクフルト・ベルリンにおけるケネディの正義と自由

●三の一、フランクフルトにおけるケネディの正義 民主主義の原点の一つとなったフランクフルト国民議会（1848年）のあったパウルス教会でケネディ米国大統領が1963年六月二十五日に演説した記念の教会外壁レリーフの一節に『115年前はドイツはこの地で統合された。すべての国で自由が栄えな

る。ケネディの民主主義源流であるギリシヤや古代・ローマ以来の確たる民主主義の歴史観が垣間見られ、フランクフルト国民議会に至る近代民主主義の正義でもある歴史観が政治家自身の「ど真中」に入っているのです。因みにフランクフルト市のレーマ広場中央・右手に剣（力の意味）左手に天秤（正義を計る正義の意味）を持つ正義の女神像ユステシアが市是「正義にあつて強く」で自由と権利を断固守る姿を象徴している。

●三の二、旧東ドイツの首都ベルリンでのケネディの自由 ケネディ米国大統領はフランクフルトのパウルス教会訪問の翌日の1963年六月二十六日に所謂「ベルリンの壁」の前で有名な「Ich bin ein Berliner（自由を求める者、皆ベルリン市民である）」の演説を行う。演説を要約すると次の様である。『二千年前の世界で、最も誇り高い言葉は「私はローマ市民である。」そして今日の自由世界で最も誇り高い言葉は「私はベルリン市民である。」という言葉だ。・私は大西洋の彼方に住むアメリカ国民を代表してあなた方に言う。

我々は過去十八年間（1945から63年）の苦難（西側国からの食糧を始めとする空輸物資等により耐え抜いた西ベルリン市民の苦難の耐乏生活）を、あなた方と分かち合えたことは最大の誇りであったと。十八年間もベルリンの壁の包囲の中にあ

りながら、西ベルリンほど活気と力、希望と決意をもって生きてきた他の街を私は知らない。・自由は分轄できない。一人の人間が奴隷であるならば、すべての人は自由ではない。すべての人々が自由になる時、このベルリンもドイツ国家も、そして偉大な欧州大陸も、平和と希望に満ちた世界で、一つになる日がやがてくるだろう。その日は必ずやってくる。どこに住もうと、すべての自由を求める人間は、ベルリン市民だ。だから、私は一人の自由を求める人間として誇りを持って言おう。Ich bin ein Berliner（自由を求める者、皆ベルリン市民である）。・』と演説を行いケネディはこの約五ヶ月後の1963年十一月二十二日に母国・テキサス州のダラスで暗殺された。「ベルリンの壁」は構築から二

十八年後の1989年十一月九日に遂に崩壊した。そしてケネディが西ベルリン市民に語ったようにドイツは一つになったのである。そしてフランクフルトのパウルス教会での演説と同様に二千年前の世界で、最も誇り高い言葉は「私はローマ市民である。」と再び古代ローマから始まる欧州各国の歴史が、大西洋を隔てても且又アメリカの歴史でもあると、そして歴史と民主主義の共有性を、つまり大西洋革命（米国独立革命、フランス革命）やケネディ提唱の大西洋共同体を著者は再び想いだす。

●四、日本国憲法と戦後日本の正義●四の一、ワイマール憲法と日本国憲法 戦後の日本国憲法（1945年）前文①項にある「国民主権とは……ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。」と第一条の「天皇の地位、国民の主権」で「天皇は、日本国の

象徴であり日本国民統合の象徴であつて、この地位は主権の存する日本国民の総意に基づく」でワイマール憲法一条の「ドイツ国は共和国である。国家権力は人民に由来する」の国民主権の思想を受継いでいる。社会権とは即ち「国民・市民が社会で働いて人間らしく生きていくために必要な文化的な生活を営む為の諸権利の事で、日本国憲法の中で

の社会権を挙げれば25条「生存権として健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」、26条「教育を受ける権利」、27条「勤労の権利」、28条「労働基本権として労働者の団結権、団体交渉権、団体行動権」等があり日本国憲法に色濃く影響しています。つまり経過を述べるに古代ローマの多くの法体系を後の東ローマ帝国がローマ法大全に編纂したものとしまでの仏国の国内法を踏まえてナポレオン一世がナポレオン法典を完成させ、これが欧州全域に広がりプロイセン憲法にも影響し、これを参考にして明治憲法が伊藤博文によって作られたと同様に日本国憲法もフランス革命の人權宣言の影響を受けたフランク

フルト憲法（1848年）。そしてその影響を受けたドイツのワイマール憲法（1919年制定）の影響を受けている。

●四の二、日本国内の正義と日本の内政・外交について 戦後七十年近くの中で片山・細川内閣や民主党内閣の例外を除けば事実上の政権交代が無く自民党・一党独裁状態で、選挙民である国民・有権者がそれを許してきたのだが、その間の自民党内閣及び与党・自民党選択に誤りが無かったのか。神ならぬ身の間である以上誤りが多少有るのは仕方無いが、主権在民の主人公の日本国民が民主主義と云う政治について、著者を含めて日常生活を通じて必死に勉強したとは到底想われない。民主主義や主権在民の真の意味を捉えず、投票行動はもとより、首長や議員一人一人の活動を真剣にチェックしてきたのだろうか、選挙で選べない行政や司法の高給官僚の能力・識見や官僚自身のエゴな保身に疑問をもたず、怒るべき時、行動すべき時にデモやストライキに正当な行為として、沖縄県以外の此処、直近の四十年間を見ても安保改定反対闘争

やの原発再稼働反対以外に示威運動が殆ど何もないのは、美德でなくて無知と勇気の欠如であろう。日本人が劣化してしまつてデモやストを「エセ犯罪行為」と想っているのだとしたら民主主義の歴史を踏まえて民主主義とは何か自問したらどうだろうか。そして政治の指導者即ち大臣や議員の質が相当レベルが低いのは選ぶ側の国民の意識が低い為で、偶々東日本大震災で礼儀正しく我慢強い国民性は世界のマスコミ報道で賞賛されたが、頭に乗ってはいけない。日本の指導者を含めて一般日本国民が経済大国と国際社会から一目置かれていた割には民主主義志向、即ち「自由、平等、博愛の精神」の認識が世界の平均水準よりも相当低いと著者は想っている。例えば、個人間での美しい人間関係の尊重や、細やかな謙譲や思いやりのある日本人の美德は決して否定しないが、正当、不当な事柄に対して毅然としないで仕方がないとか、チョットだつたらまあイイカ主義になつていて、国内の地方（市、県レベル）、中央の公の政治・行政レベルで儘通用するかも知れないが

外交や国際問題や国際関係には通用しない。キチンと戦略と論理立てをした外交をしないと、その場限りの社交や接待だけではうまくいく筈がないし、国内で通ずる安直な思考は一切通用しないと厳然と峻別すべきである。でないとは伝統的に外交力の弱い日本が、更に最近急に交渉力が落ちたのと同様に国会両院内の質疑にしても答弁のはぐらかしや肩透かしであってデベイトやマトモな論戦になっていない。これは小中学から高校・大学に至るまでデベイト教育を受けたなかった代議士先生に原因があるのと（早大・弁論部出身の政治屋は名ばかりでデベイトをしない）同様に指導者側の教諭・校長、教授・学長にもデベイト力がなく、日本国の指導者層からデベイト教育をしないことには日本の国会の質疑がマトモにならない。これから半世紀以上懸るかもしれない。麗しい人間関係や親密な思いやりの互助の精神は必要で直接、東北震災で被害に遭われた方々には今は敢えて言わないが、東北以外の日本国民には是非冷静になつて民主主義に不可欠なデベイト

Ⅱ 論議を尽す事を重要視して、これら二つは共に重要でどちらも民主主義の発展に欠けてならない。中世では支配者には悪玉や英明な君主がいた様に、現代の民主主義の主権者国民や国民の代理代表においても、悪玉や英明な市民・議員がいて決して日本国民が民主主義の優等生とは思えない。その理由は健全な民主主義、例えば確固たる二大政党制で互に牽制させて、より健全な統治能力の有する政党に又は育てがいの有る政党に政権を委ね、野党になった政党にも捲土重来を喫して貰い政党を絶えず育てる、恰も我子を育てるが如く賢明に育てば周り回って主権者たる国民へ佳き報酬が廻つて来るのだが民主主義とは自ら育てるものだが未だにヨソから頂いた意識から抜けていない。

●四の三、ポツダム宣言下の日本国内の不正義とヤルタ協定の不正義 戦後を生きる日本人高齢著者にとつてポツダムと聞けば1945年七月二十六日のポツダム宣言と同年八月十五日の昭和天皇の戦争終結のポツダム宣言受諾の無条件降伏の玉音放送が直ぐに頭をよぎる。この間の

約二十日間、日本の軍部（為政者）が即座に降伏を受入れ、直後の国民や兵士の無駄死をさせないとする人間として武士道としての最小限の精神さえ持合せず、軍部（為政者）は自ら国民を保護し、自ら盾になるべき者が、逆に国民を盾にして自らの保身に走り日本国を滅亡寸前までにさせた敗戦の決断を即座にしなかった「不正義一」とすれば、続く八月六日の米軍の非戦闘員・市民に対する非人道の広島・長崎の原爆投下と続く八月九日の長崎の原爆投下は「不正義二」で二十数万の国民が犠牲になることはなかった。八月十五日の玉音放送後の八月二十日からのソ連の日ソ（不可侵の）中立条約を破つてのソ連の日本国への参戦行動の「不正義三」でありヤルタ会談（ソ連・米・英1945年2月）の先立つ極東密約（1944年12月）の裏取引でのソ連の参戦開戦の暗黙了解した米国の「不正義四」であり、「不正義三、四」は先立つヤルタ会談の秘密協定によるものである。それによってソ満国境での日本人犠牲者やシベリヤ抑留での戦病死者が十数万、挙句の

果てに北方領土四島の不法占拠。66年経ての今も著者はこれ等の「不正義一、二、三、四」は許せない。日本人が外国からこれほど痛めつけられ、死に至る数十万人単位の犠牲を強いられた史実は此処二千年間の日本歴史に無い事だろう。そしてこれらの「不正義一、二、三、四」に続く「不正義五」が今も続いている。それは即ち、敗色濃いつている。昭和二十年（1945年）春、沖縄は米軍によって全島が完全に占領され「沖縄県民斯克戦えり、県民に対し後世特別の御高配を賜らんことを」と遺書を残して六月廿五日に割腹自殺した大田沖繩軍最高司令官の遺言とも言ふべきものが戦後六九年経ての沖縄は現在も百八十度違う過重とも言ふべき米軍基地の日本国の全負担の七四%を沖縄一県が負っており。著者は当時の大日本帝国政府が全てが悪いと言う完璧の民主主義者でもないが、さりとて軍国主義者を擁護する積もりもサラサラない。しかし著者は日本国を愛する一人であるし、同時に古代ギリシア・古代ローマに始まり大西洋革命に至る民主主義の精神を愛

する日本人でもある。オバマ米大統領は米国の沖縄政策・外交・軍事行動で沖縄県民に果たして人権尊重の「正義」を貫いていると言えるのか、自由・人権は自国米国内ものだけではない人類普遍のものであるからだ。本誌35号の拙著「米国革命の自由平等と日本国の不自由平等」の●三の一、沖縄の米軍基地を正義の観点から一部を引用すると「・・・普天間から辺之古の移転問題で約二十年前に決めた日米合意の辺之古案が地元沖縄県民の反対（騒音、落下事故、米兵の婦女暴行、日米地位協定の治外法権下の基本的人権無視等々）で既に破綻しているのに米政府の意向は、民主主義の原点である「国民主権の自由、平等」の政治と明らかに矛盾して米国民と日本・沖縄県民とダブルスタンダードで使分けている**「不正義五の一」**。米国の建国の父達は・・・英国の不当性を自らの立場に照らして主張して訴えたではないか、占領地や占領軍でもない他国に治外法権の軍事施設が六十九年間も続いて**「不正義五の二」**・・・そもそも日米安保条約が米国だけの義務

的・片務性の強い性格だから、代償として沖縄県民の人権無視の米軍基地を従属的に強制的に永久的に提供せねばならないのか。米国も日本を真の友と思うならば沖縄県民の人権を尊重し「自分の国は自分で守ったら」と原則を日本に言うべきで・・・米国も建国の直前の時代に英国・国王軍が横暴をしても治外法権として屈辱をなめてきた祖先の歴史を自ら想像力を沖縄基地に働かせば直ぐ解る事である。・・・米建国の国是の「自由、平等」の為に、日本人及び沖縄県民の人権尊重の為に理解して欲しい。万一、「日・中有事」の際に米国は自国の若者の血を他国で無駄に流したくない為に屁理屈をつけて義務不履行の事態になれば米国家による安全保障サギ**「不正義五の三」**に遭遇する事になるが？

●五、2014年のロシアの**正義と日本国内の不正義** 前述のベルリンの壁崩壊（1989年）から2014年は二十五周年の記念年であるが、2014年はウクライナ共和国のクリミア（半島）を法と正義を無視し

た国際法違反の力づくでロシア・プーチン大統領がロシアに併合してしまった。引続きウクライナ共和国東部のドネツク州・ルガンスク州に対して併合を狙っている。これらを「**不正義六**」とすると前述**「不正義三」**の北方領土占拠と同じ手口であり、結果としてロシアはG8（サミット）から事実上の脱退を余儀なくされたが、ロシアは反省をしていない。世界の民主国際社会発展に寄与すべき国連の五大常任理事国の一国でありながらソ連（1917から91年）が共産党一党独裁の共産主義国家となり約七十年間の共産主義国家の実験は前述のベルリンの壁崩壊で失敗に終り、民主国家に変身したかと言えは否である。直近のウクライナ問題が、それを証明している。ロマノフ王朝の皇帝は古代ローマ皇帝に倣いツァーと呼ばれるが、古き佳き古代ローマの精神は残念ながら受継いでいないようだ。国内のアベノミクスも怪しくなり消費税10%先延ばしを解散理由としたが景気条項で既に可としていて解散の大義にはならない。昨今、派遣者労働法改正法案（非

正規雇用者の増大で労働条件が悪化）やホワイトカラーエグゼンプション法（残業手当より業務成果）で女性を含む労働者がどう活躍できるのかや、奇しくも麻生蔵相のナチスの手口発言、即ち喧騒の中でなく秘かに着々進めてナチスの全権委任法の如く憲法改正の手続きをせずに閣議だけの憲法解釈変更での集団的安全保障の是認。そして国民の知る権利や表現の自由を侵犯する秘密保護法案の曖昧な関連実施法案等が解散で信を問わねばならぬものを伏せての「**不正義八**」はナチスの手口である。

●六、おわりに 現在、EU二十七ヶ国も又古代ローマと国々の構成はほぼ同じくEU共同体は直接の創設の目的理由は過去の独・仏の対立で第一次、第二次大戦の戦争で欧州全体が被害を受け、その戦争の再発防止であるが、元はと言えばEUの欧州諸国のそれぞれの国の濫觴が古代ローマの属州であったことから国の歴史が始まり、EUの共同体は自然な成行きで歴史は二千年を超えて繰返されているとも言えるのである。（完）

“らららクラシック”

符津地区 北野正敏



NHK教育テレビ土曜21時半から“らららクラシック”と言う、三十分間の音楽番組があり、世界の古今の名曲を、作曲の経緯や聴きどころなど、優しく解説してくれる。

毎週、これを楽しみにしている。

ちなみに、私がクラシック音楽ファンになって、五十数年になるが、音符も読めず、楽器も弾けず聴くだけのファンであるが、何百年も前から、世界の人に愛されてきた名曲は、聴けば聴くほど、味があり、心に沁みわたる。

私の携帯の着メロは、メンデルスゾーンのパイオリン協奏曲

で、甘美な旋律は、いつも心を和ませてくれる。

スケートの浅田真央ちゃんは、先のオリンピックで、ラフマニノフのピアノ協奏曲で世界を魅了した。

男子の新鋭、町田選手は、ベートーベンの“第九”に挑戦している。

実は、私は会社の同僚に誘われ、二十年前から、小松第九の合唱団に加わり、三年に一度のペースで開催される演奏会に参加している。

“第九だけ合唱団”であるが、音符の読めない私にとってその達成感は格別である。平成二十七年暮れには、七回目の挑戦をしたい。

とにかく、ベートーベンの苦難を乗り越えての歓喜、勝利に至る曲想は、運命交響曲にも共通で、私の人生訓でもある。

ベートーベンのピアノ協奏曲“皇帝”やパイオリン協奏曲も素晴らしい。

大好きな英雄交響曲や牧歌的な“田園交響曲”ピアノの“エリーゼのために”などもベートーベンの曲として、親しまれている。

ベートーベンの少し前の天才作曲家、モーツアルトの作品も素晴らしい。

アイネクライネナハトムジーク、トルコ行進曲、交響曲四十番などが私の好みである。

チャイコフスキーの悲愴交響曲やピアノ協奏曲、白鳥の湖、ピアノの詩人、ショパンの幻想即興曲や別れの曲・・・。

ドボルザークの新世界交響曲第二楽章の“家路”の部分が望郷心をそそる。

私が始めてクラシック音楽に惹かれたころの曲は、ロッシニのウイリアムテル序曲やズツペの軽騎兵序曲、オッフェンバックの天国と地獄、ビゼーのカルメン、メンデルスゾーンの結婚行進曲などである。比較的に軽快で短い曲である。

ピアノ曲にも先の曲以外にもいっぱい名曲がある。乙女の祈り、ユモレスク、展覧会の絵・・・。

オペラでは、先のカルメンの闘牛士の歌や、アルルの女の前奏曲、蝶々夫人のある晴れた日に、アイーダの凱行進曲、マドンナの宝石の間奏曲等々、耳慣れない曲は解らないが、聴いているうちに味が出てくる。

ビバルディの四季やベルリオーズの幻想交響曲・・・。近代になると中々なじめないが長い人生、食わず嫌いで終わらぬよう、レパートリーを増やしたい。

私の最も好きな曲は、ベートーベンの運命交響曲で、冒頭のじゃじゃじゃやんの四音の主題が変化しながら、千変万化に現れ、各章ごとに昇華、特に第四楽章の力強さがたまらない。エベレストか富士山のように、燦然と輝く人類の至宝であろう。



駅伝（エキデン）

その一

寺井地区 本多政明



私は毎年お正月（2日～3日）にはテレビ放送されている「東京箱根間往復大学駅伝競走」を楽しみに観戦しています。

今年（平成26年）は特に90回記念大会であつたので関心を持って、OB会会員の多くの方も観戦されていたのではないかと思います。

東京大手町⇕神奈川県箱根町の往復路ともに5区間（108km、109・9km計217・9km）10区間を10人の選手達が走る。

母校の名誉と選手各位の榮譽にかけて力走されている姿は大いに勇気づけられます。

ヨシッ頑張らなくては！

私と陸上競技とのかかわりは、昭和40年に町青年団協議会の事務局を担当、その翌年に誘いを受けいつしか陸競会員となり記録面を担当することになりました。

今では「駅伝」も国際語として通用すること、北京、ソウル、バルセロナ・等々で国際駅伝が開催され日本はもとより世界各国から参加されている。駅伝は我が国独特の陸上競技種目であり、別称「リレーマラソン」と言われている。

実業団小松製作所栗津工場チームは全県下を対象とした歴史と伝統ある、しかも青年団が大会を運営している駅伝大会で優勝の栄冠を勝ち得ている大会が二つあり、列記しました。

手取川は県下最大の一級河川で全長78km。

河北潟は県下最大の湖沼である。

◆栄光のあしあと

一つは、第19回手取川一周駅伝です。（昭和45年11月15日開催）7区間35・9kmで2時間1分13秒でV。能美郡根上町（当時）の国鉄寺井駅前スタート・ゴールでした。

もう一つは河北潟一周駅伝です。

第56回、昭和51年11月23日新嘗祭（現在、勤労感謝の日）開催、河北郡津幡町役場前スタート・ゴールの5区間22・9kmです。

第19回手取川一周駅伝競走大会

昭和45年11月15日

参加チーム数 11（うちオープン2） 35.9 キロ

1位 小松製作所（1区より5.2k（今坂）3.8k（清水）7.2k（橋場）4.2k（後畑）4.2k（山内）6.6k（西田）4.7k（石田）） 2時間1分13秒

（区間最高）1区今坂晴幸 18'02" 3区橋場 健 24'15" 5区山内光男 13'35" 6区西田 芳 21'00" 7区石田哲治 15'38"

（40回記念 H3.11.17 プロより転記）

ちなみに、手取川一周駅伝の第一回の名称は「改修促進駅伝」昭和25年4月川北村役場前スタート・ゴール40・2km、7区間。優勝は河北郡英田村青年団でした。

第56回河北潟一周駅伝競走大会

昭和51年11月23日

参加チーム数 21 チーム 22.9 キロ

総合の部

1位 小松製作所（1区より5.7k（井本）4.2k（清水）4.0k（不詳）4.9k（不詳）4.1k（山本））

1時間15分35秒

（区間優勝者）1区井本敏彦 19'43"

2区清水 勉 12'41" 5区山本秀敏 13'06"

（90回記念プロより転記）

ちなみに、河北潟一周駅伝第一回は、大正9年（1920年）11月23日津幡町役場前スタート・ゴールの4区制。参加は9チームで、優勝は河北郡大場村青年団でした。

現在実施の我が国最古の駅伝「箱根駅伝」も大正9年2月14日に第一回が開催され、優勝は東京高師（現在の筑波大学の前身）でした。

以上

嬉しい再会

寺井地区 前田昭則



NPO法人心田開発の丸いも収穫日は、毎年十一月の最初の土曜日が恒例となっている。今日はその丸いも収穫日である。小雨が降る中準備をしていると、車が一台停車して此方を見ている、ボランティアの人にしては早い、誰かなと思って見ていると、車から降りてカップパに着替えている。「おお、今日の芋掘りは中止や」と言いながら畑から出て車に近寄ると、『前田さんお早うございます』と患者のM君が声を掛けてくる。「おおMか、久しぶり、元気か、芋掘りの手伝いに来てくれたんか、有難う。しかし今日はこの天気だし、中止にしようと思っている。それよりも身体の方大丈夫か、随分

と太ったな、『はい九十kg超えました』『勉強どうした』『資格取得に頑張っています』『焦らずになあ、期待しているぞ』『芋掘りは今度何時ですか』『一週間後の予定だ』『それじゃ一週間後また来ます』と小雨の中帰って行く。一年振りにM君の元気な顔を見て何となく安心する。彼と最初に出会ったのは、五年前前金沢大病院の菊池先生が患者数名を連れて、丸いも畑を訪ねて来られたときが初対面である。それから三年程、田植え稲刈り脱穀、丸いもの弦巻作業などで、一緒に汗を流し飯を食った仲間である。

それから二時間後、芋掘り中止の連絡をして、後片付けをしていると、また一人、若い学生がやってくる。『前田さんお早うございます、樽田です』『いよう樽田久しぶり何年振りや』『三年振りです。今日収穫日だと聞いて手伝いに来ました』『そうかありがとう。残念だけど今日はこの雨だから中止や』『芋掘りは中止でも後片付け有るでしょう』と言ってカップパ長靴を素早く身に付け、『一緒に汗流します』と言って畑に入って

来る。『それなら杭運び頼むは』『はい』と言って重い杭を黙々と畑から道路まで運んでくれる。樽田君は、先端技術大学院大学の学生である。彼とは、彼ら学生が主催で開催した、地域活性化セミナーに参加したのが縁でその後何かと応援してくれる。前回は確か稲刈り作業で先端大学生を連れて応援に来てくれた筈である。十二時過ぎ迄後片付け作業を手伝い、『良い汗かきました。今度また来ます』と言って帰って行きました。

一週間後、絶好の芋掘り日和に恵まれました。沢山の仲間や会員会友の人達の手伝いを頂き、午前中で無事芋掘り作業は終了しました。

当日は総勢三十名近くの方達の応援を頂き和気藹々の中楽しく作業出来ました。

今年は当初予定日が雨で流れため、毎年ボランティア活動で来てくれていたコマツ栗津工場からの応援がなく人集めに心配していました。コマツのボランティア担当者が、私が在職中の職場の人に声を掛け九名の仲間が駆けつけてくれたのです。十数年振りの再会に感激しまし

た。

数日後、メールが届き、『単に芋掘りだと思ったが、腰や肩が凝った、結構重労働だ。先輩無理しない様に、又応援に行きます』の言葉があり感謝の気持ちで目が潤みました。

今年も丸いも栽培のお蔭で、多くの方達とお会い出来、嬉しい再会も出来ました。仲間や友達は大事な宝ものである。勇気百倍、やる気千倍のパワー頂き有難う。

心の病農作業で支え

能美のNPO法人 患者と加賀丸いも収穫

農作業を通じて心の病を抱える人々の健康回復や社会復帰を支援する能美のNPO法人「心田開発」が、今年も11月10日（土曜）に、同市寺井地区の畑で「丸いも」の収穫を行いました。当日は、心身の病を抱える患者や家族、ボランティア、地域の子どもたちなど、約30人が参加し、約30分間の作業を行いました。収穫した丸いもは、今年も市内の福祉施設や高齢者施設などに提供される予定です。

北陸中日新聞掲載（平成26年11月9日）

『コマツOBゴルフ同好会』の紹介

コマツOBの方でゴルフが好きな方々の集まりです。 月1回(10回/年)コンペを開催してゴルフを楽しんでいます。
皆さん同好会へご入会の上、ゴルフを楽しみましょう!!

平成26年の成績(上位のみの抜粋、飛賞・NPは省略)

	第251回				第252回				第253回				第254回			
	平成26年3月18日				平成26年4月8日				平成26年5月13日				平成26年6月10日			
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET
優勝	北野 元男	97	26	71	竹川 和信	91	25	66	角谷 正樹	95	29	66	飛田 勇治	86	20	66
準優勝	山田 俊昭	83	11	72	深田 武男	96	30	66	二輪謙太郎	86	19	67	上田 幸久	98	30	68
3位	関戸 邦雄	89	16	73	長谷川 治	79	12	67	山崎 雅弘	91	21	70	安達 利勝	92	22	70
4位	本村 孝	99	26	73	関戸 邦雄	83	14	69	桜井 昭維	94	23	71	吉田 昭久	90	19	71
5位	米久 厚生	103	28	75	山崎 雅弘	90	21	69	東 稔	104	32	72	米久 厚生	99	28	71
6位	朝岡 孫明	94	18	76	佐竹 保之	83	14	69	中村 幸雄	83	11	72	荒井俊一郎	94	22	72
7位	淵田洋一郎	97	21	76	釜本 隆司	94	24	70	中島 久人	94	21	73	松林 廣中	85	13	72
B.B	安達 利勝	114	22	92	竹村 安造	115	23	92	永山登治郎	114	20	94	石堂 俊明	109	24	85
B.G	山田 俊昭	83			長谷川 治	79			中村 幸雄	83			前田 信行	84		
(参考)	参加人数：44名				参加人数：50名				参加人数：51名				参加人数：43名			

	第255回				第256回				第257回				第258回			
	平成26年7月8日				平成26年8月12日				平成26年9月9日				平成26年10月14日			
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET
優勝	高田 龍蔵	86	18	68	竹村 安造	90	23	67	本村 孝	89	26	63	木本 信一	103	34	69
準優勝	佐竹 保之	84	14	70	稲富 隆夫	98	31	67	関戸 邦雄	83	14	69	斉藤 貢次	84	13	71
3位	稲富 隆夫	106	36	70	山内 光男	90	23	67	桜井 昭維	93	23	70	中島 久人	93	21	72
4位	中村 外次	87	16	71	大塚 由實	92	24	68	前田 信行	78	8	70	桜井 昭維	92	19	73
5位	中出 晃	90	19	71	竹川 和信	82	14	68	高来 満	89	18	71	佐伯 洋	93	20	73
6位	前田 和雄	99	28	71	前田 信行	76	8	68	佐伯 洋	93	20	73	吉田 昭久	93	19	74
7位	竹村 安造	94	23	71	木本 信一	103	34	69	木本 信一	107	34	73	釜本 隆司	98	24	74
B.B	浅本 博司	123	29	94	深田 武男	106	21	85	山下 賢司	108	15	93	高田 龍蔵	103	10	93
B.G	山下 敏夫	80			前田 信行	76			山田 俊昭	82			斉藤 貢次	84		
(参考)	参加人数：49名				参加人数：46名				参加人数：47名				参加人数：39名			

	第259回				第260回(納会:WP)				
	平成26年11月11日				平成26年11月27日				
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	
優勝	山下 賢司	83	15	68	大塚 由實	90	20.4	69.6	
準優勝	中村 外次	86	16	70	中島 久人	93	21.6	71.4	
3位	淵田洋一郎	91	21	70	東出 一夫	89	16.8	72.2	
4位	大塚 由實	95	24	71	片山 諭	94	21.6	72.4	
5位	北村 明雄	91	20	71	山崎 雅弘	95	21.6	73.4	
6位	山本 晴充	90	18	72	関戸 邦雄	82	8.4	73.6	
7位	東 稔	104	32	72	佐伯 洋	94	20.4	73.6	
B.B	竹村 安造	106	13	93	前田 和雄	106	24	82	
B.G	山下 賢司	83			中村 幸雄	79			
(参考)	参加人数：44名				参加人数：40名				

ゴルフ同好会へ入会ご希望の方は下記へご連絡ください。

代表幹事：山田 俊昭 TEL:0761-23-0846 090-9768-1186
携帯Eメールアドレス：toshiyamada1121@ezweb.ne.jp

『コマツOBグラウンドゴルフ同好会』の紹介

コマツ栗津工場OB同好会グラウンドゴルフ大会 成績表

(上位入賞者のみ抜粋)

回数	H26年 第1回	H26年 第2回	H26年 第3回	H26 第4回
日時	H26. 7. 8(火)	H26. 9. 22(月)	H26. 11. 17(月)	H27. 1. 27(火)
場所	木場潟公園わんぱく広場	木場潟公園わんぱく広場	小松ドーム屋内広場	小松ドーム屋内広場
天候	曇り時々晴れ	晴れ	晴れ	
参加人員	男26、女11、計37名	男32、女26、計48名	男70、女47、計117名	男77、女55、計132名
成績				
男子優勝	宮越 信夫 (符津)	小西 政勝(安宅)	(外部)	長 英男(矢田野)
準優勝	川崎 博通(国府)	杉山 邦雄(国府)	助田 俊勝(根上)	(外部)
3位	吉川 正雄(符津)	藤田 友明(八幡)	二口谷 勇(符津)	家 邦夫(辰口)
4位	盛戸 良三(根上)	南 敏治(御幸)	(外部)	増田 克己(芦城)
5位	杉山 邦雄(国府)	田中祈良志(国府)	(外部)	(外部)
女子優勝	中村千代子(東陵)	片山 禮子(辰口)	(外部)	戸井とよみ(今江)
準優勝	片山 禮子(辰口)	竹村ミツ子(松東)	内田美枝子(今江)	(外部)
3位	儀田 紀子(八幡)	儀田 紀子(八幡)	新保 輝子(今江)	堀江美代子(御幸)
ホールイン ワン賞	山西 外之(東陵)	小西 政勝(安宅)	奥村 辰司、水田多寶子	宮崎 勲(湯谷)
	吉川 正雄(符津)	長 和子(矢田野)	戸井 政明、伊豆 捷彦	北口 啓二(東陵)
	盛戸 良三(根上)	宮崎与志嗣(大聖寺)	藤田 和代、助田 俊勝	長 和子(矢田野)
	中村千代子(東陵)		萱森 和子、上田 孝	山西喜与志(中海)
			大島 義秋	竹村ミツ子(松東)

グラウンドゴルフ同好会へ入会ご希望の方は下記へご連絡ください。

宮越 信夫 TEL/FAX 0761-44-1327

小松製作所栗津工場OB会規約

第1章 名称および目的

- 第1条 本会は「小松製作所栗津工場OB会」と称する。
ただし、「コマツ栗津工場OB会」と称することも可とする。
- 第2条 本会は会員相互の親睦・交流を図ることを目的とする。

第2章 会 員

- 第3条 本会は下記の者をもって構成する。
1. コマツ栗津工場の定年退職者。
 2. 本社・他事業所・関係会社へ出向または移籍後の定年退職者。
 3. 本社・他事業所・関係会社の定年退職者で、当地へ転入して入会を希望し、常任理事会がこれを認めた者。
 4. 上記に準ずる者で常任理事会が入会を認めた者。

第3章 機関および役員

- 第4条 本会の機関は、総会、常任理事会、および理事会とする。
- 第5条 総会は本会の最高決議機関であって、毎年4月に定期総会を開く。
なお、理事会において必要と認めた場合は、臨時総会を開催することができる。
- 第6条 1. 常任理事会は会長、副会長・会計・常任理事をもって構成し、会長の諮問に応ずるとともに、理事会への提案事項を審議し、会務を執行する。
2. 1項の会務および第24条の本会事業の円滑な遂行を図るため事務局を置く。
事務局は常任理事をもって構成し、事務局長・局員若干名とする。
- 第7条 理事会は会長・副会長・会計・常任理事・会計監査および理事で構成し、常任理事会からの提案事項・その他重要事項を審議し、会務を執行する。
- 第8条 各機関の決議は、出席人員の過半数の同意を必要とする。
- 第9条 本会には下記の役員を置く。
- | | | | |
|-----|-----|------|----------------|
| 会 長 | 1 名 | 常任理事 | 若干名 |
| 副会長 | 3 名 | 会計監査 | 2 名 |
| 会 計 | 1 名 | 理 事 | 別に定める地区分会ごとに選出 |
- 第10条 役員は会員中より選出し、総会の承認を得るものとする。
- 第11条 1. 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. ただし、最長期間は5期10年（役職通算とするが、地区理事の就任期間は除く）とし、役職による期間は3項による。
3. 1. 常任理事 4期8年とする。 2. 事務局長 3. 会計 4. 副会長 5. 会長は各3期6年とする。
4. 改選時以外に就任した時は、3. の期間に加算するものとする。
- 第12条 会長は本会を代表し、会務を統括する。
- 第13条 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。
- 第14条 常任理事は会長、副会長を補佐し、会務を執行する。
- 第15条 会計は本会の会計を担当処理する。
- 第16条 会計監査は本会の会計を監査する。
- 第17条 理事は地区分会を代表し、会務を執行する。

第4章 地区分会

- 第18条 本会には別に定める地域割りによる地区分会を設置する。
- 第19条 地区分会は各々の地域内において、本会の設立目的に沿い諸活動を行う。
- 第20条 地区分会には前条目的達成のため、必要に応じ委員を置くことができる。

第5章 会 計

- 第21条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。
- 第22条 本会の経費は次の収入をもって充当する。
会費・入会金・寄付金・コマツ栗津工場およびコマツユニオンからの賛助金。

- 第23条 1. 会費は年額2,500円とし、前年度末までに納入する。
2. 新規入会者は入会時に入会金2,000円を納入し、会費の納入は次年度よりとする。
ただし、65歳以上で入会する場合は、3,000円以上別に定める入会金とする。
3. 退会者（死亡者も含む）に対しては、既納の入会金・会費の払戻しはしない。
4. 会員が満90歳（4月1日現在で）を超えたる時、または、長期重度療養見舞を受けた
る時は、次年度より会費の年額を1,000円とする。
5. 白寿の祝いを受けられた方は、名誉会員として、次年度以降の会費の納入を免除する。

第6章 事業

- 第24条 本会は次の事業を行う。
1. 親睦・交流のための諸行事。
 2. 会報および会誌の発行。
 3. 会員名簿の作成および改訂配布。
 4. 会員米寿および白寿の祝い。
 5. 会員および会員配偶者の死亡に対する弔慰。ただし配偶者の場合は会員生存中に限る。
 6. 長期重度療養者の見舞い。
 7. ボランティア活動。
 8. その他、本会の目的達成のために必要な事項。
 9. 慶弔の基準は別に定める。

第7章 退会

- 第25条 1. 会員本人が退会の届出をした場合、および年度会費納入の請求に対し1年以上未納の
場合（住所・連絡先不明の場合を含め）は、退会とする。
2. 退会した場合は、会員名簿より氏名を削除し、以後は会員権利の行使を認めない。
3. 退会後の再入会は、やむを得ない事情があることを常任理事会が認めた場合に限り
これを認める。

第8章 付則

- 第26条 本会の規約改定および解散は、総会の3分の2以上の同意を必要とする。
第27条 本規約に定めなき事項については必要の都度、役員協議の上決定する。
第28条 本規約は昭和53年（1978年）6月4日より施行する。

最終改定日 平成25年4月25日総会にて決定。

【内部規定抜粋】

・慶弔基準

1. 米寿および白寿祝い
満88歳および満99歳を迎えた方に、5,000円相当のお祝いを贈呈する。
2. 長期重度療養者見舞い
3ヶ月以上、施設または自宅で療養中であり、かつ要介護3以上と認定された方が対象。
お見舞金は、10,000円、同一人に対して1回とする。上期と下期の2回調査する。
3. 会員および配偶者死亡にたいする弔慰
会員の死亡には、香典10,000円、生花1基、弔文を贈り、地区代表者が弔問参列する。
会員配偶者の死亡には、香典5,000円、弔文を贈り、地区代表者が弔問参列する。

・定期外入会者の入会金

- 65歳未満の入会者・・・入会金 2,000円
65歳以上～70歳未満の入会者・・・入会金 3,000円
70歳以上は常任理事会の承認を得て・・・入会金 5,000円
他工場OB会から転入した場合・・・入会金不要、入会年度会費必要

編集後記：

今年もコマツ栗津工場OB会誌第36号が刷り上りました。これもひとえに会員のみなさまのご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

この会誌は構成から見ると大きく二つの部分に分かれています。前半はOB会の年間行事を中心としたもの、後半は会員の皆様からの自由投稿による部分です。今号は昨年にくらべると少しコンパクトな仕上がりになっていますが、これは特集を組まなかったことによるものです。

昨年の会誌発行後、読んだ会員から「OB会の歴史がわかって大変良かった」「二気に通読しました」など感想を頂き、会誌が読まれているなど実感でき、編集に携わる側として嬉しく心強く思いました。

表紙の写真選びには毎回苦労しています。今回は金沢までくる「北陸新幹線」、非常に珍しい

「長旅をする蝶アサギマダラ」そして栗津工場の「新組立工場」の中からの選択でした。最終的には、一番身近に感じる、懐かしさを感じさせ、ここまで進んで来たかと感じる組

立工場を編集委員会で採用することに決めました。今のトピックの新幹線とレアな蝶の写真は別枠で掲載させて頂きました。

今年は、拡張されたこまつ杜、新しく建設中のビクターズセンターなどでのボランティア活動が5年目に入ります。また3月14日新幹線開通、5月17日の全国植樹祭など周囲にいろいろ賑やかしいイベントが続きます。こうした中でOB会員の元気な様子が会誌に反映できればと思っております。

この会誌への投稿を含め、会報あるいはホームページでOB会の行事を知り、参加されその感想をお知らせいただき、少しでも明るく元気に過ごされますようご祈念致します。今後ともご協力賜りますようお願い申し上げます。

(竹田敏洋記)

本号の感想をお寄せ下さい

会誌第36号で、最も面白かった投稿、印象に残った投稿その他感想を、竹田までお寄せ下さい。

次号 会誌原稿募集

平成28年3月発行予定の会誌第37号の原稿を募集します。

●原稿募集要項

1. 字数は、四百字詰め原稿用紙10枚以内
(表題、写真含む)
2. 随筆、紀行文、思い出、俳句、川柳など
内容は問いません。
3. 表紙の写真・絵画も募集。
4. パソコン利用の方は、ワードデータで送信してください。
5. 原稿締め切り H27年11月末日
原稿送付先 および お問合せ
小松市串茶屋町丙5・5 竹田 敏洋
TEL 0761(44) 1004
メールの場合
t.takeda68@jasmine.ocn.ne.jp
- 6.

コマツ栗津工場OB会

会誌 第三十六号

発行日 平成二十七年三月十七日
発行者 OB会会長 西尾 皓史
発行所 石川県小松市符津町ツ二十三
コマツ栗津工場OB会
編集者 会誌編集委員会(常任理事会)
委員長 竹田 敏洋
事務局長 向井 良夫
電話 〇七六―二二―七三三〇
印刷所 石川県小松市向本折町八一七一
有限会社 斉藤印刷

フォトアルバム



撮影場所：白山登山道

日 時：2014年9月7日 15時頃

撮 影 者：川崎 則雄(東陵地区)

長旅蝶“アサギマダラ”

私は趣味としての写真歴はまだ3年で芸術的な写真は撮れませんが、この写真では二度とないようなチャンスに巡り合えました。これは白山登山道の休憩所付近で花から花へ飛び交っていた蝶が花ならぬ人のハナにとまり、人懐こくおねだりしているような光景で微笑ましくもあり、感動し、思わず撮らせてもらいました。この蝶は日本本土と沖縄、台湾、中国大陸間の長距離を春は北へ秋には南へ移動している

唯一の渡り蝶“アサギマダラ”であることを初めて知りました。大海原移動には 台風説や上昇気流説などあるようですが、どうやって移動の時期や方角を知るのか、夜間の休憩は等々、まだ生態の謎は十分解明されていないようです。昨年秋の新聞紙上では白山で放した蝶が奄美大島で捕獲されたことも載っていました。私は、これからもチャンスを求めて写真を楽しみたいと思っています。

OBの仲間入り

「トワイライトエクスプレス」＝たそがれ寝台特急とでも訳しましょうか…加賀平野沿線の風景に、ごく当たり前のようにとけ込んでのんびりと走っていたが、老朽化を理由にこの春で運行を終え、四半世紀の歴史を閉じることになった。

夢をありがとう!

撮影列車：トワイライトエクスプレス
撮影日時：2013年5月8日 15:27
撮影場所：手取川の鉄道橋近辺にて
撮 影 者：沢村 勝義(金沢地区)



金沢港に過去最大の客船が初寄港!

コマツ金沢工場横の大浜埠頭対岸で“1日1撮り”を楽しんでいたら、あの大きな金沢工場の建物を一口で飲み込んでしまいそうな、とてつもなくでっかい客船が入港してきたのには驚いた。

船の文字を見たら『DIAMOND PRINCESS』と書いてあったので帰って調べたら、日本で建造した船だ、と!

ふと、若いころ職場の上司や仲間たちと三菱の造船所を見学ドライブに行き、ものすごく大きいエンジンなどに度肝を抜かれたことを思い出し、頬が緩んだ。

撮影客船：英国P&O所有 ダイアモンドプリンセス号
撮影日時：2014年6月14日 5:15
撮影場所：金沢港大浜埠頭対岸にて
撮 影 者：沢村 勝義(金沢地区)



新しい北陸、はじまる！

構想から40年余り・・・いよいよこの春、北陸新幹線金沢開業だ！北陸に新しい鉄道の時代がやってきた。この希望のレールが、さらに1日でも早く金沢から小松⇒福井⇒大阪へと延伸して、その夢が大きく拓くことを願ってやまない。

この写真は、開業7ヶ月前に試験走行がはじまったその初日、初の電車が金沢駅を出発した直後の歴史的瞬間をパチリしたものです。

撮影電車：川崎重工製 W7系第1編成
撮影日時：2014/8/5 8:45
撮影場所：金沢駅西時計駐車場屋上にて
撮影者：沢村 勝義（金沢地区）